# 平成27年度(2015年度)

## 事業報告書



▲ 学校法人 愛知医科大学

## ◆ 目 次

【内	容】	【頁数】
1 理	里事長あいさつ	1
2 法	去人概要	5
(1)	) 沿革	7
(2)	) 組織機構図	8
(3)	)役員・評議員	9
(4)	) 学長・副学長	10
(5)	)設置学校等	10
(6)		11
(7)	)職員数	12
(8)		12
(9)		13
(10)		14
(11)		15
(12)		15
(13)		16
(14)		16
(15)		17
(16)		18
(17)		24
(18)		25
(19)		26
(20)		28
(21)		30
(22)		30
(23)		31
	事業概要 	33
•	才務状況等 	65
(1)		67
	) 財務状況概要	70
	) 学校法人会計財務三表	72
(4)		73
(5)		74
(6)		75 
(7)		77
(8)		81
(9)		83
(10)		83
(11)		83
(12)		83
(13)		84
(14)		85
(15)	) 監査報告書	87
_ =	5 CD (1) = T = E	00

## 1 理事長あいさつ

#### 1 理事長あいさつ

本学は、新病院(中央棟)の完成により、敷地中央部分に高度な病院機能が集約されると共に、大学本館・研究棟・看護学部棟・医心館からなる大学機能と渡り廊下によって繋がり、教育・研究・診療の密接な連携が図られる形となりました。また、CD棟の改修を終え、現在行われている旧AB棟(高度救命救急センター含む)の解体をもって、一連の新病院建設事業の完了となりますが、キャンパスの機能を高めるため、バスロータリーの設置やアメニティ棟の建設、さらには立石池外周道路の拡幅も視野に整備を進めることとしています。

さて、平成27年度は「新病院を契機に全てを見直そう」という努力が実を結び、教育・研究・診療における多くの改善への取り組みが現実の姿として浮かび上がるようになりました。

新病院においては、患者案内システムNAVITが象徴的ですが、受付・検査・診察・会計まで全てのシステムを見直し、効率化・短縮化を図っています。来院されると直ちに本学が他病院と根本的に異なる機能を有していることがご理解されるものと考えています。

教育環境としては、診療への電子カルテ導入を契機に、学生講義室に無線LAN環境を設置し、講義中の資料の閲覧、ダウンロード、小テストの実施、電子書籍のチェックなどのeラーニングが可能な環境を整えました。また、モバイル端末を利用した新しい学生教育用電子カルテシステムを構築し、プライマリーケアセンターにおけるOJT (on the job training)を行うなど新しい教育環境を構築しました。さらに、平成27年度に開設したシミュレーションセンターでは、全ての医療処置を事前にシミュレートできる環境で学び、更にそれをプライマリーケアセンターで実践できる優れた教育環境を整えることができました。看護学部の病棟実習においても、学生専用端末を用いて、実習中から、電子カルテを利用し、実践力を養っているところです。

医学教育の医学教育分野別評価基準(日本版)に基づく自己点検国際認証に向けたカリキュラム改革も進んでおり、学外連携病院の協力を得て、臨床実習時間を段階的に増加させ、「社会への貢献」を認識させる第一歩としています。

研究活動の活性化に関しては、文部科学省・日本学術振興会の科学研究費助成事業に申請して不採択となった研究計画であっても、次回申請での採択が大いに期待できるA評価者に対して、再度の申請に向けた準備をすることができるよう支援することにしました。更に、Jump Up作戦と名付け、過去に研究活動実績のある者や自然科学系領域の知識を有する者に、本学研究者の科研費申請にかかる補助業務を依頼することとし、科研費研究計画調書作成を支援する体制を充実させることで、科研費申請件数の増加及び採択率の向上を目指しました。その結果、申請件数は、前年度対比で約3割増となりました。

目を海外に転じると近年、わが国の教育研究機関における国際交流活動は規模が拡大しつつあり、 政府も当該活動を積極的に推進すべく関連補助金事業を充実させて、今や大学のグローバル化は国家 戦略に位置付けられています。本学でも、新たに国際交流センターを設置し、海外の協定校との人材 交流が盛んに行われるようになるなど、国際交流面でも成果が上がってきています。

大学の理念の実現に向け、圧倒的に優れた教育・研究・診療環境を整え、新時代の医学医療を担う 人材育成に、オール愛知医科大学が一丸となって努力して参ります。

> 学校法人 愛知医科大学 理事長 三宅 養三

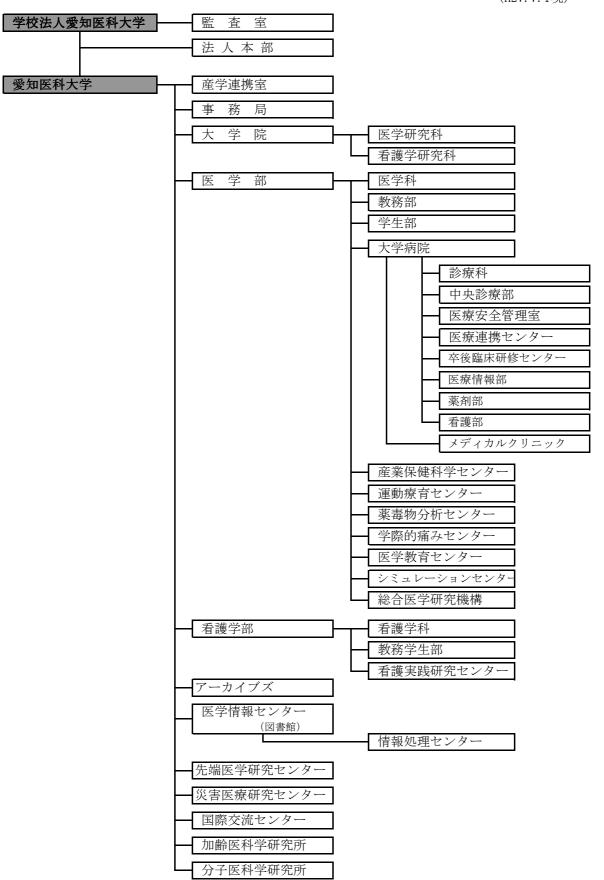
## 2 法 人 概 要

#### 2 法人概要

#### (1) 沿 革

- 昭和46.12.25 愛知医科大学(医学部医学科)設置 認可
- 昭和47.1.28 附属病院(暫定病院)開設許可(名古 屋市守山区森孝新田字元補11番地)
- 昭和47.2.1 附属病院(暫定病院)使用許可
- 昭和47.4.11 医学部第1回入学式
- 昭和49.1.28 新附属病院開設許可(愛知県愛知郡 長久手町大字岩作字雁又21番地)
- 昭和49.5.30 新附属病院使用許可
- 昭和49.9.9 高等看護学院設置認可
- 昭和49.9.20 高等看護学院第1回入学式
- 昭和51.9.20 高等看護学院を看護専門学校と 改称
- 昭和52.12.5 法人名を学校法人愛知医科大学と 改称
- 昭和54.7.1 附属病院救命救急センター開設
- 昭和55.3.26 大学院医学研究科設置認可
- 昭和55.6.4 大学院医学研究科第1回入学式
- 昭和56. 3.30 看護専門学校入学定員変更 (30名→50名)
- 昭和56.4.23 情報処理センター設置
- 昭和58.4.1 加齢医科学研究所設置
- 昭和58.6.1 メディカルクリニック開設(名古屋 市東区東桜2丁目12番1号)
- 昭和58.12.21 附属動物実験施設設置
- 昭和60.4.1 看護専門学校課程変更(2年課程昼間定時制→3年課程全日制)
- 昭和62.10.1 運動療育センター設置
- 昭和63. 4.1 核医学センター設置 研究機器センター設置 分子医科学研究所設置 附属図書館を医学情報センター (図書館)と改称 附属動物実験施設を動物実験セン ターと改称
- 平成 4.3.24 看護専門学校入学定員変更 (50名→100名)
- 平成5.6.16 産業保健科学センター設置
- 平成6.2.1 附属病院の特定機能病院承認

- 平成8.3.28 附属病院救命救急センターの高度 救命救急センター認定
- 平成11.12.22 看護学部看護学科設置認可
- 平成12.4.5 看護学部第1回入学式
- 平成13.6.16 薬毒物分析センター設置
- 平成14.1.1 学際的痛みセンター設置
- 平成14.3.31 看護専門学校廃止
- 平成15.11.27 大学院看護学研究科設置認可
- 平成16.4.1 医学教育センター設置
- 平成16.4.7 大学院看護学研究科第1回入学式
- 平成17.4.1 病院名を愛知医科大学病院と改称
- 平成20.4.1 総合医学研究機構設置 臨床試験センター設置 先端医学・医療研究拠点設置 看護実践研究センター設置
- 平成22.4.1 総合医学研究機構を改組(動物実験センター,核医学センター, 研究機器センター,臨床試験センターを同機構の部門として統合)
- 平成24.1.4 長久手市市制施行に伴う所在地名 地番の変更(愛知県長久手市岩作 雁又1番地1)
- 平成24.3.31 先端医学 · 医療研究拠点廃止
- 平成24.4.1 先端医学研究センター設置
- 平成26.4.23 新病院(中央棟)使用許可
- 平成26.11.1 災害医療研究センター設置
- 平成27.4.1 国際交流センター設置
  - シミュレーションセンター設置



## (3) 役員・評議員

## ◆ 役 員

(H27.6.1現)

<u> </u>		(1121:0:196)
区 分	氏 名	主な役職
理事長	三宅 養三	理事長
理事	佐藤 啓二	学長,医学部教授
理事	岡田尚志郎	副学長,医学部長,医学部教授
理事	羽生田正行	病院長, 医学部教授
理事	衣斐 達	看護学部長,看護学部教授
理事	島田 孝一	法人本部長
理事	羽根田雅巳	事務局長
理事	小出 龍郎	非常勤
理事	坂井 克彦	非常勤
理 事	土井 清孝	非常勤
理事	柳田 昇二	非常勤
理事	山内 一征	非常勤
理事	山岸 赳夫	非常勤
理事	渡辺 俊也	非常勤
監 事	伊藤 元	非常勤
監事	林 清博	非常勤

## ◆ 評議員

(H27.6.1現)

氏 名	主な役職
衣斐 達	看護学部長,看護学部教授
上田 龍三	医学部教授
岡田尚志郎	副学長,医学部長,医学部教授
小池三奈美	看護部長
小林 章雄	医学部教授
佐藤 啓二	学長, 医学部教授
島田 孝一	法人本部長
夛喜田惠子	看護学部教授
羽生田正行	病院長,医学部教授
羽根田雅巳	事務局長
八島 妙子	看護学部教授
山口 悦郎	医学部教授
若槻 明彦	副学長,医学部教授
神谷 美帆	看護学部同窓会会長,看護学部助教
小出 龍郎	医学部同窓会理事長
藪下 廣光	医学部同窓会副理事長, 医学部教授(特任)

氏	名	主な役職
市川	義彦	非常勤
大輪	芳裕	非常勤
黒江幸		非常勤
齋藤	征夫	非常勤
坂井	克彦	非常勤
櫻井	敏	非常勤
笹本	基秀	非常勤
杉田	洋一	非常勤
土井	清孝	非常勤
三宅	養三	理事長
柳田	昇二	非常勤
山内	一征	非常勤
山岸	赳夫	非常勤
山中智	冒津子	非常勤
山村	恵子	非常勤
渡辺	俊也	非常勤

## (4) 学長・副学長

職名	氏 名
学 長	佐藤 啓二
副 学 長	岡田尚志郎 若槻 明彦

## (5) 設置学校等

※ 平成24.1.4 長久手市市制施行に伴い,住所表示変更:長久手市岩作雁又1番地1

#### ◆ 学 校

名称	開設年月日	所在地	備  考
医学部医学科	昭和47.4.1	愛知郡長久手町 大字岩作字雁又21	
看護学部看護学科	平成12.4.1	同上	
大学院医学研究科	昭和55.4.1	同上	
大学院看護学研究科	平成16.4.1	同上	
高等看護学院	昭和49. 9.20	愛知郡長久手町 大字岩作字丸根78-1	S51.9.20 看護専門学校に改称 H14.3.31 看護専門学校廃止

#### ◆ 病院

名 称	開設年月日	所在地	備考
医学部附属病院 (暫定病院)	昭和47.2.1	名古屋市守山区 森孝新田字元補11	
医学部附属病院	昭和49. 5.30	愛知郡長久手町 大字岩作字雁又21	H6.2.1 特定機能病院に承認 H17.4.1 愛知医科大学病院に改称
附属病院救命救急センター	昭和54.7.1	同上	H8.3.28 高度救命救急センター認定
メディカルクリニック	昭和58.6.1	名古屋市東区東桜 2-12-1	

◆ 附属施設 (H28. 3. 31現)

名称	開設年月日	所在地	備考
附属図書館	昭和47.4.1	愛知郡長久手町 大字岩作字雁又21	S63. 4.1 医学情報センター(図書館) に改称
情報処理センター	昭和56.4.23	同上	
加齢医科学研究所	昭和58.4.1	同上	
附属動物実験施設	昭和58.12.21	同上	S63.4.1 動物実験センターに改称
運動療育センター	昭和62.10.1	同上	
視聴覚教材センター	昭和63.4.1	同上	H17. 3.31 廃止
核医学センター	昭和63.4.1	同上	
研究機器センター	昭和63.4.1	同上	
分子医科学研究所	昭和63.4.1	同上	
産業保健科学センター	平成 5.6.16	同上	
薬毒物分析センター	平成13.6.16	同上	
学際的痛みセンター	平成14.1.1	同上	
医学教育センター	平成16.4.1	同上	
総合医学研究機構	平成20.4.1	同上	H22.4.1 改組 (動物実験センター,核医学センター, 研究機器センター,臨床試験センター を同機構の部門として統合)
臨床試験センター	平成20.4.1	同上	
先端医学・医療研究拠点	平成20.4.1	同上	H24. 3.31 廃止
看護実践研究センター	平成20.4.1	同上	
先端医学研究センター	平成24.4.1	長久手市岩作雁又1番地1	
災害医療研究センター	平成26.11.1	同上	
国際交流センター	平成27.4.1	同上	
シミュレーションセンター	平成27.4.1	同上	

#### (6) 建学の精神

#### ◆ 医学部の教育理念・目標

医学教育は、ヒューマニズムに徹し、医学に関連した社会的使命を進んで果たす医師を養成することを目的としている。現代社会は、医学の研究に豊かな思考力と創造性を発揮し、常に医学の進歩に対応しつつ、高度の知識・技術を身につけることのできる医師又は医学者を求めている。これらの要請に的確に対応するため、本学医学部の教育目標を以下の3点に設定している。

- ① 将来の医学・医療の様々な分野に共通して必要な基本的な知識,技術及び態度・習慣を身につけ, 生涯にわたる学習の基礎をつくる。
- ② 自主性・創造性を身につけ、問題解決能力を高める。そして、医学の進歩と、医療をめぐる社会情勢の変化に対応できる能力を養う。
- ③ 医療を、予防・診断・治療からリハビリテーションまでの総合的なものとしてとらえ、自然科学のみならず、その背景にある精神的・社会的諸問題と関係づけて考える力を伸ばす。

#### ◆ 看護学部の教育理念・目標

人間の尊厳に畏敬の念をもつ豊かな人間性を涵養するとともに、看護の対象となる人々と信頼関係を築き、その人がその人らしく生きられるように、ヒューマンケアを提供できる看護専門職者を育成する。 社会・科学・医療の変化に対応した専門職者としての責務を認識し、創造的・発展的に実践能力を身に付け、国際的にも社会貢献しうる資質の高い実践者を育成する。また、教育・研究者になりうる看護専門職者を育成し、看護学の発展に貢献する。

この理念に基づく教育目標は次のとおりである。

- ① 良識ある社会人として、思いやりのある豊かな人間性を培う。
- ② 人間としての尊厳と権利を擁護する人材を育成する。
- ③ 多様な背景をもつ人々と信頼関係を築き、看護専門職としてのケアリング能力とヘルスプロモーションの能力を育成する。
- ④ 社会の要請に対応できる専門的知識・技術に基づき、倫理的判断力とクリティカルシンキングに支えられた実践能力を育成する。
- ⑤ 看護専門職者としての自立性を育むとともに、諸専門領域の人々との協働者及び調整者としての能力を着う。
- ⑥ あらゆる人々の生活の質の向上を目指して、国際性を育み、地域社会の保健政策に貢献する人々を 育成する。
- ⑦ 生涯学習に主体的に取り組み、実践科学である看護学の発展に貢献しうる人材を育成する。

## (7) 職員数

(単位:人)

区	分	教職員数
	<del></del>	1
	教授	66
	教授(特任)	42
	准教授	59
	准教授(特任)	10
   教育職員	講師	89
<b>教育</b> 概員	助教	177
	医員助教	72
	専修医	81
	教学監	1
	学務監	0
	事務職員	198
	司 書	6
事務職員他	技術技能職員	116
于7力帐只IE	業務職員	16
	医療職員	298
	看護職員	1043
合	計	2, 275

## (8) 大学院

## ◆ 学生数

(単位:人)

7TT 659 4 V 67		3 W + 1	在籍学生数							
研究科名	収容定員	入学定員	1 学年次	2学年次	3 学年次	4 学年次	計			
医学研究科(博士課程)	120	30	29	29	37	33	128			
看護学研究科(修士課程)	30	15	13	14			27			

#### ◆ 学位授与者数(H27年度)

(単位:人)

研究科名	課程博士	論文博士	課程修士
医学研究科	19	6	
看護学研究科			14

## ◆ 大学院研究生数

(単位:人)

研究科名	研究生数
医学研究科	16

## (9) 医学部医学科

◆ 学生数

(単位:人)

	収容定員	入学定員	学年			在籍	学生数		計	卒業者数	
収谷疋貝	八十疋貝	<del></del>	1学年次	2学年次	3学年次	4学年次	5学年次	6学年次		平未有效	
	653	113	男	69	75	66	63	61	59	393	50
			女	44	53	41	46	51	55	290	49
			計	113	128	107	109	112	114	683	99

学生数(年次推移)

(単位:人)

年度	収容定員	入学定員			在籍等	学生数			計	卒業者数
中 及	収谷足貝	八子足貝	1学年次	2学年次	3学年次	4学年次	5学年次	6学年次		平未有数
H23年度	615	105	108	118	105	107	94	112	644	101
H24年度	625	110	109	115	112	109	101	105	651	94
H25年度	635	110	113	111	111	113	107	109	664	101
H26年度	645	110	115	121	102	120	105	111	674	101
H27年度	653	113	113	128	107	109	112	114	683	99

入試状況

(単位:人)

年 度	_	般	入	試	センタ	ター試	験利用	月入試	愛知り	県地域	特別棒	华入試		推薦	入	試	
中 及	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
H23年度	1 025	1 700	191	67	553	548	24	11				_	推薦依賴校制	46	46	18	18
1125千/文	1, 925	1, 790	191	01	555	540	24	11					一般公募制	50	49	15	15
H24年度	1 675	1 5/19	199	64	738	731	26	12	34	34	7	5	推薦依賴校制	39	39	14	14
1124十/文	1,075	1, 545	199	04	130	731	20	12	34	34	34 /	5	一般公募制	49	49	17	17
H25年度	1 796	1 663	185	65	766	755	42	17	37	37	8		推薦依頼校制	40	40	15	15
1125千/文	1, 720	1,005	100	0.5	100	100	42	11	31	31	0		一般公募制	68	67	11	11
H26年度	2, 169	2,078	233	65	857	848	38	15	65	65	7	5	公募制	92	91	25	25
H27年度	2, 209	2, 129	231	65	700	691	58	16	43	43	14	8	公募制	103	100	25	24

#### 医師国家試験合格者数及び合格率

年 度	合格者数(人)	合格率(%)
H23年度	102	83.6
H24年度	101	89. 4
H25年度	102	90. 3
H26年度	97	85.8
H27年度	101	88. 6

<sup>※</sup> 一般入試は学士編入学者を含む。※ 平成24年度から愛知県地域特別枠入試を実施※ 平成26年度から推薦入試において推薦依頼校制を廃止し、公募制に一本化

## (10) 看護学部看護学科

**◆ 学生数** (単位:人)

収容定員	入学定員		7	生 学	生数	Į.		卒業者数
以谷足貝	八十疋貝	学年	1 学年次	2 学年次	3 学年次	4 学年次	計	午未日奴
		男	11	4	7	5	27	5
400	100	女	94	107	97	108	406	103
		計	105	111	104	113	433	108

◆ 学生数(年次推移)

(単位:人)

<u> </u>	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	•						(1 12 . 7 4)
年度	収容定員	入学定員		在	学 生	数		卒業者数
中 及	以谷疋貝	八子足貝	1 学年次	2 学年次	3 学年次	4 学年次	計	<del>华</del> 未 日
H23年度	400	100	124	107	117	111	459	108
H24年度	400	100	104	137	94	116	451	109
H25年度	400	100	105	114	126	94	439	90
H26年度	400	100	108	109	115	123	455	123
H27年度	400	100	105	111	104	113	433	108

◆ 入試状況(一般・推薦入試)

(単位:人)

<b>▼</b> /\□\\\\	・ルしくが	」正/河ノへいり							(半世・八)
年 度	-	一 般	入 🏗	₹		推	薦 入	試	
中 及	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
					指定校制	14	14	14	14
H23年度	647	640	205	82	一般公募制I	33	33	8	8
					一般公募制 II	39	39	10	10
					指定校制	15	15	15	15
H24年度	593	579	204	70	一般公募制I	26	26	6	6
					一般公募制Ⅱ	39	39	10	10
					指定校制	18	18	18	18
H25年度	684	678	192	67	一般公募制I	15	15	5	5
					一般公募制Ⅱ	40	40	9	9
					指定校制	16	16	16	16
H26年度	527	520	183	66	一般公募制I	24	23	6	6
					一般公募制Ⅱ	36	36	10	10
H27年度	550	545	191	64	指定校制	17	17	17	17
1141 千/支	550	040	191	04	一般公募制	56	56	15	15

◆ 入試状況(社会人・センター試験利用入試)

(単位:人)

<b>▼</b> /\m\/\	M TAX		スイリノコノくロスノ							(単位:八)
年 度	社会人等特別選抜					センター試験利用入試				
平 及	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		志願	者数	受験者数	合格者数	入学者数
H23年度	12	11	5	3	前	期	336	336	79	6
1125千/支	12	11	3	3	後	期	18	18	2	0
H24年度	11	11	3	0	前	期	296	296	93	2
1124千/支	11	11	J	U	後	期	14	14	4	1
					前其	ЯA	380	380	67	2
H25年度	9	9 8	3	1	前非	ЯВ	221	220	33	2
					後	期	15	15	2	1
					前非	ЯA	280	280	72	6
H26年度	9	8	3	2	前非	ЯВ	150	146	42	2
					後	期	14	14	2	0
	8	8 8	1			ЯA	276	276	77	3
H27年度				. 1	前非	朔В	190	188	46	3
					後	期	8	8	3	1

◆ 国家試験合格者数及び合格率

年 度	看護師	国家試験	保健師国家試験		
年 度	合格者数(人)	合格率(%)	合格者数(人)	合格率(%)	
H23年度	104	98. 1	102	90. 3	
H24年度	102	93. 6	115	98. 3	
H25年度	94	97. 9	88	96. 7	
H26年度	121	97. 6	125	100. 0	
H27年度	111	100.0	42	97. 7	

## (11) 研究員数

## ◆ 研究員数

(単位:人)

	(1   3 . / 4/
名 称	研究員数
研究員	309
客員研究員	40

## ◆ 外国人研究員数 (単位:人)

国 籍	受入人数
韓国	1
ネパール	1
中国	1

## (12) 国際交流の状況

## ◆ 大学

大学名	国 名	開始年月日	交流内容	
東亜大学校医科大学	韓国	平成27年6月	学生・研究者の交流	
ウッチ医科大学	ポーランド	平成28年2月	学生・研究者の交流	

#### ◆ 医学部

大学名	国 名	開始年月日	交流内容
南イリノイ大学医学部	アメリカ合衆国	平成19年4月	学生の短期留学
コンケン大学医学部	タイ	平成23年11月	学生・研究者の交流
ルール大学医学部	ドイツ	平成24年1月	学生の短期留学

#### ◆ 看護学部

大学名	国 名	開始年月日	交流内容
			学生及び教員の短期交換留学
サンディエゴ大学	アメリカ合衆国	平成14年7月	文化の交流
ハーン看護健康科学学部		一次14十十月	教育・研究に関する情報交換
			共同研究
オウル大学   医学部健康科学センター	フィンランド	平成16年6月	学生及び教員の短期交換留学
看護科学学科		一块,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	研究協力
			学術的資料や情報の交換
			共同研究
ケース・ウェスタン・			教員や研究者の交流
リザーブ大学 看護学部	アメリカ合衆国	平成21年3月	学部生や大学院生、専門プログラム
1 受予即			を受講する学生の交流
			セミナー及び学術会議への参加
			特別短期学術プログラム

#### (13) 医学情報センター(図書館)

#### ◆ 蔵書数(H28.3.31現)

(単位:冊)

(単位:種)

	区分		医学・看護学書	一般教養書	製本雑誌	計	カレント雑誌		
		73	区于" 有 喽 于 音	放狄食盲	一放教養者 聚个雜誌 計		プリント版	電子ジャーナル	
	和	書	37, 808	16, 055	13, 956	67, 819	408	1, 207	
ĺ	洋	書	14, 230	2, 210	8, 082	24, 522	18	2, 582	
	計		52, 038	18, 265	22, 038	92, 341	426	3, 789	

#### ◆ 月別入館者数推移(H28.3.31現)

(単位:人)

													(十)上・/()
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入館者	7, 704	11, 591	10, 211	15, 118	5, 899	13, 029	14, 903	14, 082	12, 294	12, 706	14, 371	3, 525	135, 433

#### ◆ 年間入館者数内訳(H28.3.31現)

() ( )

◆ 年間学外入館者数内訳(H28.3.31現)

	(単位:人)
学生	122, 085
教職員	12, 354
卒業生	389
学外者	605

	(単位:人)
医療・教育機関	291
地域住民	314

#### ◆ 視聴覚資料数(H28.3.31現)

(単位:点)

種別	ヒ゛テ゛オ	DVD	その他	計
資料数	1, 107	624	6	1, 737

#### (14) 公開講座

#### ◆ 公開講座概要

- 講座名 愛知医科大学公開講座
- ・ 開催時期 9月の毎土曜日
- ・ 開催時間 午後1時30分から午後3時30分(H26年度以降:午前10時から正午)
- ・ 開催場所 たちばなホール(大学本館2階)
- 開催回数 4回
- ・ 講 師 本学教員(1回につき2名)
- ・ 修了証書 全回出席者には修了証を授与

#### ◆ 公開講座年次推移

(単位:人)

年度	講座名	申込者数	受講者延数		全回出席者数
十	一种 <u>学</u> 和	中心有剱	男性	女性	(修了証授与者数)
H23年度	暮らしと健康を守る術	442	462	577	123
H24年度	ここまで進んだ医療と予防	494	483	712	151
H25年度	病気の早期発見と最新医療	349	380	549	128
H26年度	新病院で提供される最先端医療	297	141	156	54
H27年度	体のトラブル対処法	245	106	139	92

- ※ 受講者の平均年齢は約60歳
- ※ 平成27年度は全3回開催

#### (15) 大学病院概要

#### ◆ 特 徴

昭和47年12月愛知医科大学附属病院として開院,昭和54年7月救命救急センターを開設し,地域の 重篤救急患者の医療確保に対応,昭和61年1月特定承認保険医療機関として高度先進医療を開始し, 平成6年2月特定機能病院として承認されている。

加えて、平成8年3月に中部地区で初の高度救命救急センターに認定、平成14年1月からドクター ヘリ事業が開始され、地域の救急医療の重責を担っている。

平成8年10月にはエイズ拠点病院,同年11月に災害拠点病院,平成11年2月に難病医療拠点病院に 指定されている。

平成17年4月に愛知医科大学病院へ改称。同年10月に(公財)日本医療機能評価機構の認定を受け、 平成22年10月に更新。

平成18年9月に基幹災害拠点病院に指定され、平成20年10月にはDMAT指定医療機関として災害派遣 医療チームを編成し待機させている。

また,平成22年4月肝疾患診療連携拠点病院,同年6月愛知県がん診療拠点病院,平成23年4月救急告示病院,平成25年4月地域周産期母子医療センター,同年9月愛知県認知症疾患医療センターの指定を受けている。

#### ◆ 理 念

診療・教育・研究のすべての領域において、医療を基盤とした社会貢献を目指す

- ・ 社会の信頼に応えうる医療機関
- ・ 人間性豊かな医療人を育成できる教育機関
- ・ 新しい医療の開発と社会還元が可能な研究機関

#### ◆ 基本方針

- 1. 人間性を尊重した患者中心の医療の提供
- 2. 安全で良質な医療の実践
- 3. 思いやりと温もりのある医療人の育成
- 4. 先進的医療技術の開発・導入・実践の推進
- 5. 災害・救急医療への積極的な取り組み
- 6. 地域医療連携の推進及び地域医療への貢献

#### ◆ 許可病床数

(単位:床)

一般	精神	計
853	47	900

#### ◆ 診療科・部門

診療科	33科
中央診療部門等	35部門等
(	事務部門除く)

◆ 職員数

Σ	分	職員数
医師		435
歯科医師		12
	助産師	24
看護職員	看護師	1006
	准看護師	5
	薬剤師	70
	臨床検査技師	67
	診療放射線技師	57
医療職員	理学療法士	28
<b>佐</b> /	作業療法士	9
	言語聴覚士	5
	栄養士	12
	歯科技工士	2

	<u>i</u> )	単位:人)
区	分	職員数
医療職員	歯科衛生士	4
	視能訓練士	5
	臨床工学技士	19
	臨床心理士	4
	精神保健福祉士	2
	社会福祉士	6
事務職員	事務職員	81
技術職員	臨床技術員	6
12 州	医療技術員	3
技能職員	調理員	31
業務職員	看護補助員	7
その他		9
合	計	1,909
臨床研修医		58

## (16) 大学病院業務統計

## ◆ 各中央診療部門等の業務統計(H27年度)

(H28. 3. 31)

(単位:件)

業	務名	件数	(単位:作) 計
手術件数		10, 950	10, 950
/\ \t\ /\+\\ \\	正常分娩	218	450
分娩件数	異常分娩	235	453
	診断	178, 141	
放射線取扱件数	治療	25, 307	207, 276
	R · I	3, 828	
調剤件数		1, 169, 617	1, 169, 617
注射薬処方件数		364, 635	364, 635
院外処方件数		9, 460	9, 460
	病理組織検査	15, 391	·
	術中組織検査	466	
病理検査件数	病理診断	11, 322	34, 986
	細胞診断	7, 807	
	輸血検査	35, 935	
	同種血輸血(単位)	31, 288	
	自己血輸血(単位)	1, 149	
輸血業務	自己血貯血(単位)	1, 304	69, 700
	細胞採取(回)		
	活性化自己リンパ球輸入療法(回)	19	
	微生物学的検査	62, 329	
	免疫血清学的検査	287, 391	
	血液学的検査	495, 780	
r 10 - 11. W.	生理機能検査	57, 603	E 10E 010
臨床検査件数	一般検査	168, 388	5, 135, 646
	遺伝子検査	7, 370	
	生化学的検査	3, 858, 553	
	緊急検査	46, 152	
	外注検査	152, 080	
リハビリテーション患者延数	外来患者(人)	19, 530	62, 154
	入院患者(人)	42, 624	
腎センター患者延数	外来患者(人)	807	6, 007
	入院患者(人)	5, 200	0,001
睡眠科患者延数	外来患者(人)	13, 409	14, 811
<b>些</b> 联付心有 <b>些</b> 数	入院患者(人)	1, 402	14, 011
	上部消化管内視鏡	4, 743	
	下部消化管内視鏡	3, 611	
	カプセル消化管内視鏡	38	
内視鏡センター検査件数	胆·膵消化管内視鏡	745	9, 557
	気管支鏡	331	
	救急	51	
	小腸	38	
生殖・周産期母子	NICU(人)	2, 579	
医療センター患者延数	GCU(人)	3, 299	5, 878
also are first but	件数	17	17
病理解剖	剖検率(%)	2. 5	2. 5

## (16) 大学病院業務統計

◆ 各中央診療部門等の業務統計(H27年度)

(H28. 3. 31)

(単位:件)

業	務	名	内容
			・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR
			法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定
			・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術
			・パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法腹
			膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離
			がん細胞を認めるものに限る。)
			・S-1内服投与,オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔
			内投与の併用療法
			・術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに
2	先進医療		術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法根治切除が可
			能な漿膜浸潤を伴う胃がん(洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認
			められないものに限る。)
			・カペシタビン内服投与、シスプラチン静脈内投与及びドセタキセル腹
			腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん
			・FOLFOX6単独療法における血中5-FU濃度モニタリング情報を用いた
			5-FU投与量の決定
			<ul><li>・インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法</li></ul>
			成人T細胞白血病リンバ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良
			因子を有さない慢性型のものに限る。)

## ◆ 届出事項

## [法令による医療機関の指定]

	法令等の名称	年月日	
医療法第7条第1項による開設許可(承認)		S47. 11. 28	
特定機能病院	の名称の使用承認	Н6. 2. 1	
労働者災害補	償保険法による医療機関		
地方公務員災	害補償法による医療機関		
原爆援護法	一般医療	S49. 6. 1	
戦傷病者特別	援護法による医療機関		
母子保健法	妊婦乳児健康診査		
以 下	療育医療機関	H19. 6. 20	
生活保護法に	よる医療機関	S49. 6. 18	
	育成医療	S49. 6. 1	
障害者自立 支援法	更生医療		
入版四	精神通院医療	S49. 8. 1	
臨床修練指定	病院	S63, 3, 29	
(外国医師, 外国歯科医師)		503. 3. 29	
基幹災害医療センター指定		H18. 9. 25	
DPCの導入		H15. 7. 1	
救急病院の指定		H23. 4. 1	
小児慢性特定疾患治療研究事業		H27. 1. 1	
先天性血液凝固因子障害等医療研究事業		H1. 4. 1	
難病の患者に対する医療等に関する法律によ る医療機関		H26. 12. 10	

## [東海北陸厚生局への届出事項]

お   お   ・	
名称	年月日
地域歯科診療支援病院歯科初診料	H18. 4. 1
	H20. 4. 1
歯科診療特別対応連携加算	H22. 4. 1
特定機能病院入院基本料(一般7対1)	H19. 11. 1
特定機能病院入院基本料(精神7対1)	H26. 5. 1
   臨床研修病院入院診療加算	H18. 4. 1
上 妊産婦緊急搬送入院加算	H20. 4. 1
診療録管理体制加算(2)	H13. 4. 1
急性期看護補助体制加算	H22. 4. 1
重症者等療養環境特別加算	S61. 1. 1
医療安全対策加算(1)	H20. 4. 1
感染防止対策加算(1)	H24. 4. 1
感染防止対策地域連携加算	H24. 4. 1
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	H19. 10. 1
ハイリスク妊娠管理加算	1100 4 1
ハイリスク分娩管理加算	H20. 4. 1
退院調整加算	
新生児特定集中治療室退院調整加算	H22.4.1
新生児治療回復室入院医療管理料	
地域歯科診療支援病院入院加算	H20. 4. 1
特定集中治療室管理料(2)	H27. 10. 1
病棟薬剤業務実施加算	H27. 10. 1
救命救急入院料(3)(4)(充実度評価A,高度 救命救急センター,小児加算)	H22. 4. 1
新生児特定集中治療室管理料	H20. 7. 1
新生児治療回復室入院医療管理料	H22. 4. 1
小児入院医療管理料(2)	П22. 4. 1
救急医療管理加算	H23. 5. 1
無菌治療室管理加算(1)	H24. 4. 1
患者サポート体制充実加算	H24. 4. 1
データ提出加算(2)	H24. 9. 1
栄養サポートチーム加算	H23. 8. 1
	H26. 7. 1
緩和ケア診療加算	1120. 1. 1
緩和ケア診療加算 看護職員夜間配置加算	H26. 10. 1

## [東海北陸厚生局への届出事項]

診療料(特揭診療料)	
名称	年月日
高度難聴指導管理料	Н6. 6. 1
糖尿病合併症管理料	
がん性疼痛緩和指導管理料	H22. 4. 1
がん患者指導管理料(1)	
地域連携診療計画管理料	H19. 2. 1
肝炎インターフェロン治療計画料	H22. 4. 1
薬剤管理指導料	H1. 3. 1
医療機器安全管理料(1)(2)(歯科)	H20. 4. 1
歯科治療総合医療管理料	H18. 4. 1
在宅患者歯科治療総合医療管理料	H22. 4. 1
造血器腫瘍遺伝子検査	H20. 4. 1
HPV核酸検出	H22. 4. 1
検体検査管理加算(IV)	H22.4.1
遺伝カウンセリング加算	H20. 4. 1
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	H12. 4. 1
植込型心電図検査	H22. 4. 1
皮下連続式グルコース測定	1122. 1. 1
長期継続頭蓋内脳波検査	H12. 4. 1
神経学的検査	H20. 4. 1
補聴器適合検査	H12. 6. 1
コンタクトレンズ検査料(1)	H20. 4. 1
小児食物アレルギー負荷検査	H18. 4. 1
内服・点滴誘発試験	H22. 4. 1
センチネルリンパ節生検	
補聴器適合検査	H12. 6. 1
コンタクトレンズ検査料(1)	H20. 4. 1
小児食物アレルギー負荷検査	H18. 4. 1
内服・点滴誘発試験	H22. 4. 1
センチネルリンパ節生検	
CT撮影及びMRI撮影	H18. 4. 1
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	H22. 4. 1
外来化学療法加算(1)	H21. 5. 1
無菌製剤処理料	H20. 4. 1
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	H18. 4. 1
運動器リハビリテーション料(I)	H22.4.1

診 療 料(特掲診療料)	年月日
名称	十月日
運動器リハビリテーション料(Ⅱ)	H18. 4. 1
呼吸器リハビリテーション料(I)	H18. 4. 1
医療保護入院等診療料	H17. 9. 1
透析液水質確保加算(1)	
一酸化窒素吸入療法	1100 4 1
歯科技工加算	H22. 4. 1
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(1)(2)	
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び交換術, 脊髄刺激装置植込術及び 交換術	H12. 4. 1
人工内耳植込術	H17. 3. 1
乳がんセンチネルリンパ節加算(1)(2)	H22. 4. 1
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによる もの)(高速回転式経皮経管アテレクトミー カテーテルによるものに限る)	H14. 5. 1
経皮的中隔心筋焼灼術	H20. 12. 1
ペースメーカー移植術及び交換術	H16. 4. 1
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	H22.4.1
両心室ペースメーカー移植術及び交換術	Н19. 1. 1
植込型除細動器移植術及び交換術	H15. 2. 1
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び交換術	H20. 4. 1
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	H10. 4. 1
経皮的大動脈遮断術	
ダメージコントロール手術	H22.4.1
腹腔鏡下肝切除術	
生体部分肝移植術	H15. 2. 1
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	H12. 1. 1
膀胱水圧拡張術	H22. 4. 1
腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	H20. 7. 1
医療点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯 科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げ る手術	H20. 4. 1
歯周組織再生誘導手術	
麻酔管理料(I)	H8. 4. 1
麻酔管理料(Ⅱ)	H22. 4. 1
放射線治療専任加算	H12. 4. 1
外来放射線治療加算	H20. 4. 1
高エネルギー放射線治療	H14. 4. 1

## [東海北陸厚生局への届出事項]

本	
	年月日
クラウン・ブリッジ維持管理料	Н8. 5. 1
がん治療連携計画策定料	H22. 11. 1
糖尿病透析予防指導管理料	H24. 4. 1
外来放射線照射診療料	H24. 4. 1
時間内歩行試験	H24. 4. 1
ヘッドアップティルト試験	H24. 4. 1
CT透視下気管支鏡検査加算	H24. 4. 1
大腸CT撮影加算	H24. 4. 1
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)の初期加算	H24. 4. 1
運動器リハビリテーション料(I)の初期加算	H24. 4. 1
呼吸器リハビリテーション料(I)の初期加算	H24. 4. 1
腫瘍脊椎骨全摘術	H24. 4. 1
上顎骨形成術, 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。) (歯科診療に係るものに限る。)	H24. 4. 1
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	H24. 4. 1
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	H24. 4. 1
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	H24. 4. 1
院内トリアージ実施料	H24. 4. 1
内視鏡手術用支援機器加算	H24.5.1
広範囲顎骨支持型装置埋込手術	H24. 5. 1
生体腎移植術	H24. 6. 1
総合評価加算	H24. 8. 1
呼吸ケアチーム加算	H24. 10. 1
心大血管疾患リハビリテーション料(1)	H25. 6. 1
人工尿道括約筋植込・置換術	H25. 7. 1
人工乳房及び組織拡張器(乳房用)使用	H25. 9. 1
認知症専門診断管理料	H25. 9. 1
臓器移植後患者指導管理料	H25. 11. 1
自家培養軟骨使用	H26. 3. 1
植込型骨導補聴器移植術及び交換術	H26. 3. 1
心臓ペースメーカー指導管理料 植込型除細動器移行期加算	H26. 4. 1
持続血糖測定器加算	H26. 4. 1
胃瘻造設術	H26. 4. 1
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	H26. 4. 1
高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算	H26. 4. 1
HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	H26. 4. 1

診 療 料(特掲診療料)	
名称	年月日
歯科口腔リハビリテーション料(2)	H26. 4. 1
緑内障手術(治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	H26. 4. 1
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	H26. 4. 1
経皮的冠動脈形成術	H26. 4. 1
経皮的冠動脈ステント留置術	H26. 4. 1
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	H26. 4. 1
治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	H26. 4. 1
ポジトロン断層撮影	H26. 5. 1
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	H26. 5. 1
輸血管理料(1)・適正使用加算	H26. 5. 1
画像誘導放射線治療加算(IGRT)	H26. 6. 1
透析液水質確保加算(2)	H26. 6. 1
病理診断管理加算(1)	H26. 7. 1
口腔病理診断管理加算(1)	H26. 7. 1
外来緩和ケア管理料	H26. 7. 1
画像診断管理加算(2)	H27. 1. 1
定位放射線治療	H26. 11. 1
体外照射呼吸性移動対策加算	H26. 11. 1
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	H26. 11. 1
外傷全身CT加算	H27. 2. 1
冠動脈CT撮影加算	H27. 2. 1
心臓MRI撮影加算	H27. 2. 1
強度変調放射線治療(IMRT)	H27. 4. 1
CAD/CAM冠	H28. 1. 1
乳房MRI撮影加算	H28. 4. 1
胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝 切除 (葉以上) を伴うものに限る)	H28. 4. 1
骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植 (非生体) (同種骨移植) (特殊なものに限 る)))	H28. 4. 1
腹腔鏡下肝切除術	H28. 4. 1
硬膜外自家血注入	H28. 4. 1
遺伝学的検査	H28. 4. 1
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	H28. 4. 1
検査・画像情報提供加算	H28. 4. 1

## ◆ 特掲診療料の施設基準(通則5及び6)に掲げる手術の実施件数(H27.1.1~H27.12.31) (単位:件)

手 術 名	実施件数(年間)
頭蓋内腫瘤摘出術等	69
黄班下手術等	223
鼓室形成手術等	123
肺悪性腫瘍手術等	102
経皮的カテーテル心筋焼灼術	142
靭帯断裂形成術等	47
水頭症手術等	54
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	37
尿道形成手術等	106
角膜移植術	1
肝切除術等	62
子宮附属器悪性腫瘍手術等	28
上顎骨形成術等	10
上顎骨悪性腫瘍手術等	7
バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(全葉)	0
母指化手術等	2
内反足手術等	0
食道切除再建術等	15
同種腎移植術等	52
胸腔鏡を用いる手術および腹腔鏡を用いる手術	942
人工関節置換術	202
乳児外科施設基準対象手術	0
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	56
冠動脈,大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む)	71
経皮的冠動脈形成術,経皮的冠動脈粥腫切除及び経皮的冠動脈ステント留置術	288

#### (17) 高度救命救急センター

#### ◆ 救急車搬送件数

(単位:件)

		(十座・口)
年 度	件 数	1日平均
H23年度	3, 865	10.6
H24年度	4, 382	12. 0
H25年度	4,032	11.0
H26年度	4, 443	12. 2
H27年度	5, 535	15. 1

#### ◆ 患者数

## (単位・人) ◆ 疾患別収容患者数

(単位:人)

▼ <b>心</b> 1	1 35		(	単位:人)	<b>→</b> // /	达川水石					(	<u>   位:人)</u>
年 度	区分	実患者数	延患者数	1 目平均	循環器 疾 患	脳血管障 害	呼吸器 疾 患	腹部患	熱 傷疾 患	左記以外 呼吸管理	その他	計
	ICU	707	3, 170	8. 7	266	70	61	81	8	0	221	707
H23年度	HCU	1,966	7, 562	20.7	228	253	235	451	7	0	792	1, 966
	計	2,673	10, 732	29. 4	494	323	296	532	15	0	1,013	2,673
	ICU	627	3, 220	8.8	289	102	46	63	12	0	115	627
H24年度	HCU	2,074	7, 869	21.6	281	294	296	493	5	1	704	2,074
	計	2,701	11, 089	30.4	570	396	342	556	17	1	819	2, 701
	ICU	586	3, 178	8. 7	243	114	58	31	15	0	125	586
H25年度	НCU	2,013	7, 794	21.4	212	317	318	475	4	0	687	2,013
	計	2, 599	10, 972	30. 1	455	431	376	506	19	0	812	2, 599
	ICU	596	3, 175	8. 7	269	104	43	28	17	18	112	591
H26年度	HCU	2, 292	8, 275	22.7	285	291	313	678	4	2	708	2, 281
	計	2,888	11, 450	31.4	554	395	356	706	21	20	820	2,872
	ICU	748	3, 564	9. 7	335	152	41	52	12	7	146	745
H27年度	нси	2, 492	8, 409	23.0	281	344	415	573	7	10	846	2, 476
	計	3, 240	11, 973	32. 7	616	496	456	625	19	17	992	3, 221

#### ◆ ドクターへリ出動種類別実績(ドクターへリ事業は平成14年1月1日から開始)

年 度	総出動要請数 (件)	救急現場 (件)	病院間転送 (件)	キャンセル (件)	当院搬送数 (件)	当院搬送割合(%)
H23年度	408	267	27	114	45	15. 3
H24年度	360	244	18	98	56	21. 4
H25年度	343	214	17	112	50	21.6
H26年度	378	258	14	106	53	19. 5
H27年度	326	228	20	78	56	22. 6

病院間転送・・・・本院から他院への患者搬送、他院から本院又は他院への患者搬送

キャンセル・・・出動命令後の要請取消

当院搬送割合・・・当院搬送数/救急現場+病院間転送

## (18) 大学病院病床数・患者数等

#### ◆ 病床数

(単位:床)

年 度	一般	精神	計	稼働病床数
H23年度	948	66	1, 014	941
H24年度	948	66	1,014	945
H25年度	948	66	1,014	943
H26年度	853	47	900	830
H27年度	853	47	900	836

#### ◆ 外来患者数

年 度	新患者数 (人)	延患者数 (人)	1 日平均 (人)	診療実日数
H23年度	15, 482	605, 608	2, 052. 9	295
H24年度	15, 937	609, 694	2, 080. 9	293
H25年度	14, 733	600, 631	2, 043. 0	294
H26年度	13, 074	581, 625	2, 393. 5	243
H27年度	13, 934	617, 443	2, 540. 9	243

#### ◆ 入院患者数

年 度	延患者数 (人)	1 日平均 (人)	診療実日数	新入院患者数	退院患者数	平均在院日数 (日)	病床利用率
H23年度	269, 716	736. 9	366	18, 580	18, 646	13. 5	78. 3
H24年度	272, 585	746.8	365	19, 376	19, 373	13. 1	79. 0
H25年度	259, 385	710. 6	365	19, 066	19, 060	12. 6	76. 7
H26年度	254, 481	697. 2	365	19, 647	19, 614	12.0	83. 6
H27年度	271, 343	741. 4	366	21, 949	21, 925	11. 4	89. 0

(延患者数-退院患者数)

※ 平均在院日数 = 1/2(新入院患者数+退院患者数)

#### ◆ 地域医療連携関係(H27年度)

区 分紹介患者数事前紹介予約受付数延 数 (人)28,86419,0061日平均 (人)118.878.2

(H28.3.31現)

登録医施設数	登録医数
1, 697	1, 884

## (19) 大学病院分析指標(主要比率)

## ◆ 職員数等

(単位:人)

			(半匹・八)
年 度	100床当たりの 職員数	100床当たりの 医師数	100床当たりの 看護師数
H23年度	174. 6	42.5	92. 7
H24年度	182. 5	47. 5	95. 2
H25年度	189. 2	47. 6	100. 4
H26年度	225. 9	54. 9	122. 3
H27年度	228. 3	53. 5	123. 8

<sup>※ 100</sup>床当たりの収入等の算出基礎となる病床数は稼働病床数とした。

(単位:人)

			(十四・パ)
年 度	患者100人当たりの 職員数	患者100人当たりの 医師数	患者100人当たりの 看護師数
H23年度	115. 6	28. 1	61.4
H24年度	119.8	31.2	62. 5
H25年度	128. 2	32.3	68. 1
H26年度	125. 4	30. 5	67. 9
H27年度	120. 2	28. 1	65. 2

#### ◆ 収 入

(単位:千円)

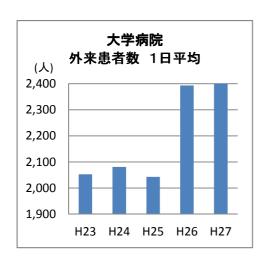
年 度	入院収入	外来収入
H23年度	15, 756, 984	8, 898, 150
H24年度	16, 594, 105	9, 426, 952
H25年度	16, 114, 537	9, 749, 891
H26年度	16, 520, 321	10, 219, 819
H27年度	18, 168, 043	11, 932, 670

注) 室料差額収入は含まれていない。

(単位:千円)

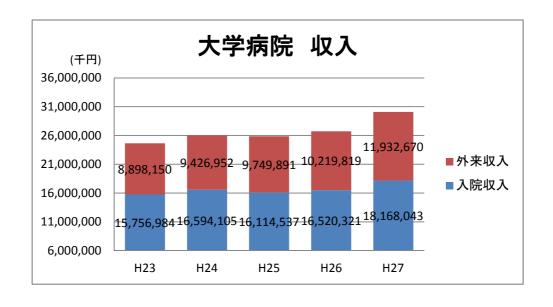
			(十四・111)
年 度	100床当たりの 医療収入	職員1人当たりの 年間収入	医師1人当たりの 年間収入
H23年度	2, 620, 099	15, 006	61, 638
H24年度	2, 753, 551	15, 085	57, 953
H25年度	2, 742, 781	14, 498	57, 605
H26年度	3, 221, 704	14, 261	58, 641
H27年度	3, 600, 564	15, 768	67, 339

<sup>※ 100</sup>床当たりの収入等の算出基礎となる病床数は稼働病床数とした。









## (20) メディカルクリニック概要

#### ◆ 特 徴

愛知医科大学メディカルクリニックは、愛知医科大学病院と緊密な連携の下に有機的に結びつき、高 度の機能を備えた大学病院と最前線の医療を担当する開業医が協調し、互いに足らざるを相補って地域 医療に貢献するために、両者の間をつなぐパイプ役として機能することを目的に、昭和58年6月に設置 されました。

本クリニックは、より高度な医療および技術を提供することにより、地域社会に貢献しています。

#### 職員数

(単位	λ)	

	区分	職員数
医師		3
看護職員	看護師	7
1 受帐只	准看護師	1
	薬剤師	2
医療職員	臨床検査技師	3
区/原/   (1)	診療放射線技師	3
	視能訓練士	1
事務職員		4
技術職員		2
業務職員		1
	合 計	27

#### 診療科等

診療科等	23科
------	-----

#### 各業務統計

(単位: 1	牛)
件 数	

163, 180

* 10	以且有	11 %
	微生物学的検査	748
	免疫血清学的検査	6, 560
	血液学的検査	6, 316
	病理組織・細胞診検査	287
	生理機能検査	1,858
臨床検査件数	一般検査	3, 426
	遺伝子検査	369
	生化学的検査	134, 996
	内視鏡検査	349
	外注検査	8, 271

計

検査名

(単位・件)

<u>-</u>	(単1) : 1十/
業務名	件数
放射線取扱件数 (診断)	3, 854
調剤件数	103, 499
注射薬処方件数	2, 466
院外処方件数	1,044

## ◆ 届出事項

## [法令による医療機関の指定]

	法令等の名称	年月日
医療法第7条	S58. 4. 20	
健康保険法に	よる(特定承認)保険医療機関	
国民健康保険	法による	S58. 6. 1
(特定承認)療	養取扱機関	
労働者災害補	償保険法による医療機関	S58. 10. 1
原爆援護法	一般医療	S58. 6. 17
母子保健法	妊婦乳児健康診査	S58. 6. 1
生活保護法に	S63. 11. 1	
児童福祉法	措置等に係る医療	S58. 6. 1
儿里佃仙伝	指定小児慢性特定疾病医療機関	H27. 1. 1
障害者自立 支援法	S58. 6. 1	
感染症法(結	S58. 10. 1	
難病の患者に による医療機	H26. 12. 10	

## [厚生労働大臣の定める施設基準等の状況]

疾 患 名	年月日
検体検査管理加算(I)	H20.7.1
明細書発行体制等加算	H22. 4. 1
ニコチン依存症管理料	H22. 6. 1
CT透視下気管支鏡検査加算	
CT撮影及びMRI撮影	H24. 10. 1
大腸CT撮影加算	

## (21) メディカルクリニック患者数等

#### 患者数

(単位:人)

年 度	新患者数	延患者数	1日平均	紹介患者数
H23年度	3, 466	34, 654	117. 5	501
H24年度	3, 482	33, 741	115. 2	508
H25年度	3, 613	34, 982	119. 0	738
H26年度	3, 063	32, 814	133. 4	703
H27年度	2, 422	35, 191	144. 8	572

#### (22) 運動療育センター

#### ◆ センターの目的

運動処方及び運動生理に関する教育研究を行い,疾病予防,健康の保持・増進のための体力診断, 指導等を行い、健康づくりに寄与する。

#### ◆ メディカルチェック項目

問 診	身体計測	皮下脂肪厚測定	尿検査	
血液(一般)	血液(生化学)	胸部X線	肺機能	
血圧(安静時)	心拍数(安静時)	心電図(安静時)	体力測定	
運動負荷テスト(1誘導)	運動負荷テスト(12誘導)	呼気ガス分析	運動指導	総合指導

## ◆ メディカルチェック者数

コース名等	人数
健康増進コース(A)	50
運動器系療法コース (E1)	337
内科系運動療法コース (E2)	250
内科系運動療法コース (E2-1)	180
シルバー (中・高齢者健康づくり教室)	26
スイミング教室(J2)	38
肥満減量コース	0
慢性痛教室	11
リウマチ教室	32
トレーニングコース(健康測定・指導)	3
本学職員	69
DM	7
슴 計	1, 003

## \_\_\_(単位:人)\_ ◆ 施設利用者数(学生除く)

(単位:人)

施設名	利用者数	一日平均
トレーニングルーム	12, 612	43. 2
プール	7, 577	25. 9
トレーニング&ジム	23, 657	81.0
計(実利用者数)	43, 846	150. 2

営業292日

#### 長久手市プール開放利用者数

(単位:人)

利用料金 一人¥515	合計	一日平均
毎週日曜日開放	3,030	60.6

日曜営業 50日

## (23) 施設の概要

## ◆ 施設の概要

(H27.5.1)

施設の名称	完成(竣工)年月日	建築面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	土地面積 ※ (㎡)
大学本館(1号館)	平成11年9月6日	4, 711. 24	18, 031. 25	10, 770. 37
守衛所(大学本館の附属建物)	平成12年3月9日	24. 00	6. 60	
研究棟(2号館)	昭和48年5月10日	4, 791. 52	16, 924. 83	7, 449. 00
基礎科学棟(3号館)	昭和46年6月3日	1, 839. 00	3, 176. 60	5, 800. 80
看護学部棟(4号館)	平成12年3月3日	1, 323. 18	3, 767. 03	241. 00
総合実験研究棟(5号館)	昭和63年3月30日	1, 033. 32	4, 092. 06	3, 566. 00
動物実験センター(5号館)	昭和53年12月25日	857. 14	898. 27	
体育館・運動療育センター(6号館)	昭和57年11月17日	3, 281. 35	7, 076. 11	4, 461. 00
医心館 (7号館)	亚己01年 0 日01日	1 500 00	3, 238. 03	4, 734. 00
廃棄物保管庫	平成21年8月31日	1, 582. 02	9. 74	
中央棟		12, 728. 50	85, 755. 82	
自家発電機棟	平成25年11月30日		552. 85	
マニホールド棟			32. 50	
C棟	昭和56年12月16日	3, 996. 08	17, 018. 86	69, 059. 77
D棟	昭和63年3月18日		11, 326. 03	
ガスガバナー室	昭和49年8月1日	95. 00	95.00	
仮設倉庫	平成20年7月15日	270.03	425. 96	
新立体駐車場	平成21年5月15日	5, 230. 03	22, 407. 36	
車庫棟			533. 26	
新ガスガバナー室			52.64	
保育所	平成21年3月31日	282. 57	242. 55	1, 581. 00
メディカルクリニック	昭和58年4月6日	1, 984. 38	2, 714. 63	1, 284. 81
雁又グラウンド				11, 169. 00
寅山グラウンド (器具庫・トイレ)	平成19年2月8日	237. 04	133. 04	56, 010. 00
クラブハウス	昭和61年12月10日	552.00	1, 152. 74	1, 112. 00
特高変電所				1, 890. 00
駐車場				71, 722. 12
その他(遊休地)				44, 461. 49
旧橘寮跡地				528. 92
合 計		44, 818. 40	199, 663. 76	295, 841. 28

<sup>※</sup> 土地面積には借地を含む。

## ◆ キャンパスマップ



- 1号館 (大学本館)
- 2 たちばなホール
- 3 レストランオレンジ
- 4 2 号館(研究棟)
- 5 3号館(基礎科学棟)
- 6 4 号館 (看護学部棟)
- 7 5号館(総合実験研究棟)
- 8 6号館(体育館・運動療育センター)
- 9 7号館(医心館)

- 10 C棟・D棟
- 12 寅山グラウンド (サッカー・ラグビー・弓術)
- 13 保育所 (アイキッズ)
- 14 病院外来駐車場(立体)
- 15 中央棟(診療棟·A病棟·B病棟)

# 3 事 業 概 要

# 3 事業概要

# 事業報告

平成27年度事業計画は、「財の独立なくして学の独立なし」のスローガンの下、事業財源の確保を最重要課題と位置付け、事業収入の根幹である病院収入の増収に努めるため、新病院の機能を最大限に発揮すべく、効率的で高収益体質の構造に繋がる事業を優先して予算化し執行した。

平成26年5月9日の新病院開院からちょうど1年半を経過した平成27年11月以降,単月の医療収入計上額は,過去最高額を更新し続け,最終的に年度としても過去最高となる317億円強の決算(予算達成率99.63%)を計上することができた。

一方,支出の中で大きなウエイトを占める人件費について,人的資源の確保を図りつつ,超過勤務の前年対比20%縮減目標等を掲げ,効率的な事業遂行に努めた成果として,人件費率は,43.77%(前年46.38%,2.61%改善)に抑えることができた。

ビッグプロジェクトである新病院建設関連事業に加え、大学南側取得用地造成工事事業、本館7階セミナー室設置及びそれに係る移転事業、さらには、国際交流推進引当特定資産及び教育研究活性化引当特定資産の組入れ事業等に注意すべく、3度の補正予算を組み、迅速に執行するなど大学全体のアクティビティが充実してきた。

こうしたことから収支差は、補正後予算から大幅に改善、帰属収支差は、約▲32億33百万円となった。 資産売却差額・資産処分差額及び新病院に係る特殊要素(寄付金、減価償却)を考慮した実質の収支差 は、約6億17百万円となり、昨年度の赤字から一転、黒字決算を打つことができた。

# 1 教育・研究関連事業

教育の質保証を進めるためには、大学自身が内部質保証の仕組みを強化・体系化し、システムとして整備することが重要との考えから、本学では、「内部質保証体制」を重視し、大学が自己点検・評価を充実させ「質の向上」を目指して活動した。また、そのことを積極的に社会やステークホルダーに対して発信・説明することを通じて「質の保証」に向き合い、各部門で、本学が現在置かれている状況を十分に認識し、「建学の精神」の具現化を目指し、「特色ある医科大学づくり」に取り組んできた。今後は、これまでの諸活動を一層発展させ、地域社会との連携強化と貢献を目指し、「選ばれる医科大学」であり続けるために、常に、より高度の目標に向けて発展を期すこととしている。

医学教育においては、米国ECFMG (Educational Commission for Foreign Medical Graduates) が2010年に出した通告を発端とした「国際的な質保証」への対応から、世界で活躍できる医師養成のためには、我が国の医学教育が、国際基準を満たしているという評価を受ける必要が出ていることを受け、世界医学教育連盟(WFME)提唱の国際基準に準拠したカリキュラムの導入は、今後、確実に実現していかねばならない。

本学が永続的な発展を遂げるためには、優れた臨床能力を身に着けた学生(医学部学生,看護学部学生)を社会に送り出すことが必要であり、また、卒後の臨床研修については、短期間で各領域の専門技量を修得できるような指導体制を構築することが必要と考えられる。

そこで現在,医学教育強化推進委員会を中心に,教員の資質及び教育の質の向上を推進するため, FD(ファカルティ・ディベロプメント)を活用した学力向上,国際基準に向けたカルキュラムの改訂 を推進している。

# (1) 医学部·大学院医学研究科

全国医学部長病院長会議は、「医師養成グランドデザインへのAction Plan」を公表し、共用試験に合格した学生に、STUDENT DOCTORの資格を付与する制度を平成26年4月からスタートさせることを提唱した。これは、臨床実習の方略について、従来、日本の多くの大学で行われてきた「見学型の実

習」から、より臨床能力の修得に優れ、グローバルスタンダードである「診療参加型臨床実習」への転換が強く求められている証左である。本学では、平成26年度から本制度を導入し、共用試験に合格した新5年生を対象に、医師の指導の下に医療行為を行うにあたり、それに足りる基本的知識、基本的技能、基本的態度を有しているということを「スチューデントドクター」として認定している。このことにより、医師を目指す医学生としての自覚、心構え、医療に携わる人間としての責任感や使命感を再認識させるとともに、学生自ら主体性と責任感をより強くして高いモチベーションを持って臨むことができるとして初めて臨床実習に臨む4月に白衣式を行った。白衣式では、認証書とスチューデントドクター章(大学のシンボルマークに「STUDENT DOCTOR」の文字を加えたもの)を授与した。このエンブレムは、実習衣に着けるもので、臨床実習に臨む学生のモチベーションを高めるとともに、学生が能力保障を受けた証しとなるものでもある。

#### (2) 医学教育改革

グローバルスタンダードに準拠した医学教育においては、特に診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)の充実が求められていることから、この実習の充実を図るため、平成26 年度までは本学の大学病院のみで行っていた同実習を、平成27年度からは学外の9病院と協定を結び、新6年生が9つの病院の中で、9週間(1クール3週間)にわたり充実した臨床実習を受けることができるようにした。さらに、平成28年1月以降は7病院を追加し、16病院で臨床実習が可能となった。また、学生自身がクリニカル・クラークシップを募集している全国の病院から自由に選択して実習が行えるように支援もしたところである。

本学では臨床実習前人間教育として、平成25年度から自ら学ぶ意欲を高め、(ア)知的な運用能力としてのスタディスキル、(イ)学生間、指導者、他職種、患者、地域住民などとの円滑な人間関係やコミュニケーションのためのソーシャルスキル、(ウ)自己の心身の健康保持、不調時の対処など日常生活のためのライフスキルを学習することを目標とした「医療人入門」を開講している。その授業の一環として、「医療人に求められる礼儀・礼節、マナーを身に付け、医学生としての品位・品格を持ち且つ謙虚な態度を保持し、自ら積極的に学ぶ姿勢を再認識する」ことを目的に4月7日~9日に2泊3日の合宿研修を実施した。

平成27年度から1日の授業コマ数を6コマとし、さらに平成28年度のカリキュラムでは共用試験CBTを12月から10月に、共用試験OSCEは2月から11月に実施することにし、6学年次の臨床実習も9週間から12週間に増やし、5学年次の9週間と合わせて合計21週間とした。

#### (3) シミュレーションセンターの設置

本学における卒前卒後一貫教育の効率的な実現及び医療者のスキルアップの機会を提供することを目的に、平成27年4月にC棟6階にシミュレーションセンター(実習室2室・事務室1室)を設置した。

同センターにおいてシミュレーターを使用することによって、医学生・看護学生が危険を伴う、あるいは臨床で遭遇することの少ない重要な医療技術の習得について、医療安全上・倫理上の問題なく 段階的に習熟するための学習が可能となった。

また、臨床研修医などの医療者の目的に合った様々な臨床技能の習得コースを開発し、生涯学習の ための機会を提供することで、全ての医療関係者に対してメディカルスキルの研鑽機会を提供するこ とを目指している。

設置に当たり、センター長 (兼務)、客員教授 (1名)及び専任教員 (1名)が着任した。 平成27年度は、センターの機器等の整備、センター開設の周知を主として行い、積極的な施設利用 を図るため、各種講義・研修等の実施・受け入れを行い、延べ約6,400名の利用者があった。特にその成果は、4年生のOSCEの前に自主的に学習できる環境が整備されたことにより、OSCE成績のアップとして現れた。

また、学内周知の一環として、8月には阿部幸恵客員教授による記念講演会、8月・2月には各種シミュレーターの体験会が開催された。この他、今後のセンター運営の足がかりとすべく、7月には愛知県内の同センターを設置している大学間での連携を図るため、地域シミュレーションセンター連絡協議会を当番校として開催し、2月には本学におけるシミュレーション教育者育成を目的とした講習会としてFun-Sim Jを開催した。

#### (4) 国際交流

平成27年度開設を目指して設置準備を行った「国際交流センター」については、渡辺秀人教授(分子医科学研究所)をセンター長として平成27年4月1日に開設した。

本センターは、各学部に分散している国際交流関係事業を整理・統合し、学生の海外派遣者を増加させ、国際交流の活性化に努め、教育・研究のグローバル化の推進、教育・研究環境の質向上を図り、国際交流事業の拠点を整備する目的で設置されており、設置以来、この目的に沿って、教職員が学外で英語による発表を行う際などに作成する抄録などの校正を行う事業(英文校正サービス)や、教職員の英語能力の向上を支援するため、英語教員を講師として、英語能力向上のセミナー(イブニング英会話)を実施し、学生、教職員が国際的に活躍できる能力を涵養するための支援を行っている。

一方、国際交流の主眼となる外国大学との交流については、平成27年6月に韓国の東亜大学校医科大学及び平成28年2月にポーランドのウッチ医科大学とそれぞれ大学レベルの学術国際交流協定を締結し、従来から交流を行っているアメリカの南イリノイ大学医学部(平成19年4月学術国際交流協定締結)、タイのコンケン大学医学部(平成23年11月学術国際交流協定締結)、ドイツのルール大学医学部(平成24年1月学術国際交流協定締結)と合わせて医学部として交流が可能な大学は5校となった。医学部学生の派遣については、平成27年度は、本学からの派遣として、平成27年8月にコンケン大学医学部へ5学年次生7名を派遣し、タイにおける診療手技の指導を仰いだ。続いて南イリノイ大学医学部へ平成28年1月に5学年次生4名、平成28年3月に3、4学年次生7名を派遣し、アメリカの診療手技やケースプレゼンテーションの指導を仰いだ。

更に、IFMSA(国際医学生連盟)を通じて4学年次生1名をウッチ医科大学(ポーランド)へ派遣し、診療手技の指導を仰いだ。

学生等の受入れについては、コンケン大学医学部からは、平成27年11月に1名(小児科学講座)のレジデントを受け入れた。また、平成27年9月には学生2名(小児科学講座、耳鼻咽喉科学講座、救命救急科)を、平成27年11月に学生1名(救命救急科)を受け入れた。南イリノイ大学医学部からは、平成28年1月に学生3名(小児科学講座、外科学講座(腎移植外科)、産婦人科学講座、救命救急科、総合診療科、リハビリテーション科、プライマリーケアセンター、周産期母子医療センター)を、ルール大学医学部からは、平成28年2月に学生1名(内科学講座(血液内科))を受け入れた。

また、学術国際交流協定大学以外の大学からの受入れとして、平成27年8月にIFMSAを通じてアンカラ大学医学部(トルコ)の学生1名(生理学)を、更に、平成28年2月には、オタゴ大学医学部(ニュージーランド)から、本学での研修を希望した学生2名(内科学講座(循環器内科)、外科学講座(消化器外科)、皮膚科学講座、耳鼻咽喉科学講座)を受け入れ、それぞれ、希望する講座等において研修を行った。

看護学部では、8月に学術国際交流協定を締結しているオウル大学医学部看護健康管理学科(フィン

ランド)へ教員 4名を派遣し、情報交換、意見交換、施設見学等により交流を図った。2月には同じく 学術国際交流協定を締結しているケース・ウェスタン・リザーブ大学フランシス・ペイン・ボルトン 看護学部(米国オハイオ州)から教員 2名を本学に招聘し、滞在期間中、講演会、セミナー、グループ ディスカッション、施設見学等を通して交流を図り親睦を深めた。3月にはケース・ウェスタン・リ ザーブ大学に本学部学生2名が10日間の日程で短期留学を実施し、看護学部の授業・演習の聴講、病 院実習、日本語クラスの学生との交流、施設見学等に参加した。

#### (5) 奨学金制度

- ① 愛知県地域特別枠入学者は、卒後に本学において5年間勤務することを条件に愛知県からの修 学資金(本学の学納金総額の約30%)が支給されているが、これとは別に、本学においても修学 資金を23名に対して貸与する事業を行った。(49,500千円)
- ② 本学卒業生が医師国家試験合格直後本学の医師等として、貸与期間1年間につき2年間勤務することを条件に奨学金を貸与する事業での新規採択者が2名採用(応募者3名)となった。(6,000千円)

#### (6) 国家試験対策

前年度に引き続き6学年次生の医師国家試験対策として予備校講師による講義を10回,模擬試験を7回実施した。また,成績不振の6学年次生を対象にした学力強化合宿を開催し,予備校講師による集中講義を実施した。

更に卒業内定者のうち、成績下位12名に対して、医師国家試験直前の4週間に特別強化プログラムを実施し、第110回医師国家試験合格者の底上げを図った。

#### (7) 学生支援の充実

学生の課外活動の一環として、国内の学会で行う発表を奨励・援助することとし、学会の発表に係る旅費を支給する制度を平成24年度から設けており、今年度は日本医学教育学会大会、日本解剖学会中部支部学術集会及び日本解剖学会総会・全国学術集会で発表した学生15名の学生に旅費を支給した。(729千円)

「大学の未来について語る会」と銘打った会は理事長、学長、医学部長等の首脳部が直接学生に、大学の理念・目標や方針などを説明し、また、学生の意見を聴き、大学の将来について食事をしながら共に考え、語り合い、大学の発展や学生の学習意欲の向上を図ることを目的に開催している。平成27年度は9月から12月にかけて6回実施し、59名(2~5学年次生)が参加した。

また、平成27年度からは、学生の規則的な生活と朝型のリズム取得による脳の活性化を図ることを 目的として、1学年次生と教員との「ふれあい朝食会」を3回実施した。

#### (8) オープンキャンパス

例年実施しているオープンキャンパスを看護学部と合同で7月及び8月に1回ずつ開催し、医学部希望者の参加は2回合計で805名(455組)と過去最高の参加者となった。看護学部においても819名(542組)の参加を得て、医学部同様に過去最高を記録した。

# (9) 入試願書受付システム更新

入学願書受付システムを更新したことで,入試業務の安定化が図れ,入学願書受付の処理精度が向上した。

# (10) 大学院

大学院医学研究科における平成27年度の学位授与数は、課程博士が19名、論文博士が5名の合計24名であった。また、平成27年度の入学者は29名で、内訳は基礎医学系専攻5名、臨床医学系専攻24名

であった。

#### (11) 看護学部・大学院看護学研究科

愛知県内の看護系大学は平成27年度に2校が開校し、合計11校となり更に数校が開設準備中である。 また、岐阜県・三重県でも今後数校の開校が予定され、少子高齢化が進む中で、学生獲得競争が激 化し教員確保も困難になってきている。本学が、他校との競争に生き残るためには、入試、学部教育、 大学院教育、認定看護師教育、研究、地域貢献において、より一層の工夫と努力が求められる。学部 教育では、看護基礎教育の法改正と社会変化に対応し、教養科目、専門基礎科目、看護専門科目群を 体系的に配置し、看護実践能力をより高めるために改正してきた新カリキュラムが平成27年度に完成 年度を迎えた。併せて改正された保健師課程の選択制を導入した中での卒業生を初めて送り出した。

入試では、優秀な学生獲得のため、平成27年度から一般推薦入学試験において基礎学力試験を導入 した。

大学院教育では、高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人を育成するために、修士論文(課題研究論文)コースに加え、感染看護学領域では専門看護(CNS)コース、クリティカルケア看護学領域で高度実践看護師コース(クリティカルケア[周術期])をこれまでに開設してきた。平成25年度に開講した高度実践看護師コースでは、特定看護師として昨年度初めての卒業生を輩出し、臨床現場へ送り出した。チーム医療の一員として、患者の一番身近な存在としての看護師であるとともに、高度な専門的知識を活用した総合判断を行って、チーム医療の推進と医療の質向上への貢献が期待されている。また、本研究科では履修生が働きながら就学できるように夜間や土曜日などに開講するとともに、長期履修制度も実施している。更に現在の複雑化した保健医療福祉環境に対応し、修士課程修了者の学術的取組みを発展させる研鑽の場として、質の高い教育研究者を養成するために、博士課程設置の検討を引き続き行っている。

看護実践研究センターは、認定看護師教育部門、卒後研修・研究部門、地域連携・支援部門からなり、感染管理及び救急看護分野での認定看護師の養成、看護実践の開発にかかわる教育・研究支援事業、地域住民に対する生涯学習事業や健康増進のための支援事業を展開しており、公益財団法人大学基準協会による平成25年度大学評価において高い評価を受けた。センター活動を含み、看護学部では今後も引き続き地域貢献活動として長久手市、北名古屋市との連携を進めていくこととしている。

- ① 大学院看護学研究科では、平成27年10月に厚生労働省の特定行為研修機関として指定され、定められた研修内容を2年間の大学院教育に盛り込む形で教育を開始した。同研修修了者は医師の作成した手順書により特定行為(21区分38行為)を行うことが可能となる。また平成28年1月には、平成25年度に開講した高度実践看護師コースの卒業生(3名)に対して、補講等を実施した上で本学最初の特定行為研修修了証を授与し、それぞれ診療看護師として現場で活躍している。高度実践看護師コースは、医学部・病院の協力の下、学生、教員ともに前例の少ない先駆的な取り組みとして学外からも注目されている。
- ② 現行の看護学部カリキュラムで明らかになった課題を解決し、社会のニーズに応え得る看護実践能力の充実した看護職の養成を目指すため、新カリキュラム検討委員会を立上げ、カリキュラムの見直について検討を開始した。
- ③ 学生の学籍管理・履修管理・成績管理や講義室の利用予約などを一括管理している学務システムについて、学生・教職員の利便性を更に向上させるため、2カ年計画でシステムの再構築に取り掛かった。
- ④ 看護実践研究センターでは、平成26年度に引き続き「救急看護」、「感染管理」の2課程で認

定看護師教育課程を開講し、認定看護師の育成を充実させるとともに、卒後研修・研究部門、地域連携・支援部門においても活発な活動を行った。また、認定看護師の養成の他、看護実践の開発にかかわる教育・研究支援事業、地域住民に対する生涯学習事業や健康増進のための支援事業を展開し、地域医療への貢献という大学理念を実践した。

#### (12) 教育・研究環境の整備

① 6号館3階体育館アリーナ迫舞台整備事業

体育館アリーナ迫舞台の劣化部品の交換整備を行った。迫舞台は安全かつスムーズに昇降できるようになり、迫舞台下に保管してあるフロアシート及び椅子の出し入れも円滑に行うことが可能となり、安全性が向上した。  $(2,538 \mp 1)$ 

② 総合医学研究機構研究基盤設備再生事業

総合医学研究機構(動物実験部門・核医学実験部門・高度研究機器部門)の老朽化した研究・ 教育支援の設備・施設を整備した(3年計画の1年目)結果,安定した研究や教育が可能となった。

(28,568千円)

③ 戦略的研究基盤形成支援事業(致死的臓器障害に対する次世代分子標的治療法の開発)

炎症性疾患,変性疾患,悪性腫瘍に関する組織横断的な研究拠点を学内に設立することを目的 として,平成23年度に開始された研究事業「致死的臓器障害に対する次世代分子標的治療法の開発」は5ヶ年の継承事業で,平成27年度が完成年度であった。

本事業により得られた知見は、致死的臓器障害に対する次世代分子標的治療法の発展に寄与するものと期待されている。(40,285千円)

④ 動物実験施設空調改修工事

5号館の空調設備は、昭和63年設置から27年経過しており、設備の劣化が著しく実験動物を飼育管理するには信頼性が低下していた。また、24時間運転のため、効率劣化による膨大なエネルギーが消費されており、さまざまな面で不効率となっていた。そこで飼育動物に支障がなく、省エネ効果が期待できる空調に改修した。(6,534千円)

# ⑤ 実験実習室備品整備

基礎科学系の3か所の実験室・実習室及び基礎医学系の5か所の実習室について、実験台等の備品は、多くのものが開学以来大切に使用されてきたが、老朽化が著しくこれ以上の使用は難しい状況となった。そこで、現状調査を詳細に実施した結果に基づき、8か所の実験・実習室を4年間で順次整備する計画を立てた。その初年度として、物理・化学・生物学(基礎科学棟)の薬品保管庫の更新、ブラインド・暗幕の更新、解剖・病理・寄生虫・感染免疫学実習室(研究棟101号室)の椅子の更新等を実施した。(3、834千円)

### ⑥ 講義室音響設備更新

大学本館及び看護学部棟は、平成10~11年に設置されたもので約16年が経過している。いずれの講義室(C棟2階講義室を含む。)も音響設備は当時のまま使用してきたが、近年においては、経年劣化による故障が増加し、その都度、修理を行ってきたが、交換部品の製造打ち切りなどで修理不能なケースも出てきた。そこで、法人・医学部・看護学部全体で講義室の音響設備のあり方等について検討を行った結果、最新のワイヤレスシステムを導入することにより、赤外線システムとなっている看護学部棟にもワイヤレスシステムが導入可能となることや、同時に大学本館講義室等の音響設備等の更新を行うことにより、機器の単価及び工賃等の節減が可能となり、併

せて本館講義室の老朽化問題も改善されることから、夏休み期間に更新を行った。(16, 173千円)

#### ⑦ 講義室無線 LAN設備更新

講義内容の動画配信,授業評価の集計,講義資料の公開,臨床手技の動画閲覧,語学教育及び学生の出欠管理など多種多様なことに移動型情報通信機器(タブレット端末等)を使用した機会が増加することが予想されることから,講義室に無線LANを設置して,これらに対応できる環境を整備した。既に医心館,大学本館の1階・3階,看護学部棟1階のロビー・学生ホール,医学情報センター等の講義室以外には敷設済であったが,今回の整備により,医学部及び看護学部のすべての講義室で無線LAN環境が整った。(12,074千円)

#### ⑧ セミナー室設置及び先端医学研究センター移転整備

医学部父兄後援会から「5年生から医師国家試験の勉強ができるように医心館のようなセミナー室を作って欲しい」という強い要望を受け、医師国家試験合格率アップを期待してセミナー室を設けることとし、学生にとって最も最適な場所として、1号館(大学本館)を候補地として選択した。大学本館内で設置場所を検討した結果、7階に設置されている先端医学研究センターは、火気の使用を伴う実験を行う研究施設であることから、同センターを研究棟1、2階に移転し、その跡地にセミナー室を設置することとした。平成27年8月から移転工事及び改修工事を実施し、平成28年3月に大学本館7階にセミナー室を設置した。(210、712千円)

### ⑨ 3 T全身用磁気共鳴断層撮影装置整備事業

MRI撮影において、これまで体幹部領域は、いかに体動補正を行いアーチファクトの少ない画像を得るかが課題であった。近年では、装置の性能向上により体幹部においても拡散強調画像が撮像可能となり、がん組織などを検出する手法として有用性が注目されている。一方で、磁化率の影響による画像の歪みが大きいため、撮像方向が制限される問題があった。

体幹部の拡散強調画像のひずみは、局所励起を用いることで低減され、子宮体がんや頸がんの 広がり・存在・良悪性診断の精度向上が期待されており、本装置は、この局所励起技術を持ち、 身体のどの領域に対しても任意の部位を選択的に励起することができる。また、体幹部の病変に 対しては、T1、T2、拡散強調画像などの複数のコントラストを撮像し、必要に応じて重ね合わせ 画像を作成して病変の広がりを診断するなど、多角的な情報が診断に有用となる。この装置は平 成26年度補正予算で債務負担を取った上で、27年度に国の補助対象備品として整備した。(25 8、984千円)

# (13) 医学情報センター (図書館)

### ① 図書・視聴覚資料及び利用環境の整備

図書・視聴覚資料の整備として、2,486冊の図書・製本雑誌、24タイトルの視聴覚資料を受け入れた。内容は、昨年度と同様に学部カリキュラムや講座等との連携の下、教科案内(シラバス)掲載の参考図書、講座等からの推薦図書、学生選書による図書等である。また、患者・地域利用者向けの図書、雑誌についてもこれまでどおり選書した上で整備した。蔵書資料の管理のため、図書館の所蔵資料及び講座等へ長期貸出中の資料を対象とした全学的な蔵書点検を実施し、報告書の取りまとめを行った。

利用環境の整備として、OPAC(蔵書検索システム)に資料の配架場所を示す書架MAPを掲載し、検索結果からWeb上で館内のどこにあるか確認ができるようにした。

#### ② 学術雑誌購読

電子ジャーナルを中心に、国内外合わせて約4,200誌(平成28年3月時点)を購読した。昨年度に引き続き、学術雑誌の価格高騰に対応するため、フルテキストの閲覧実績を勘案の上、既購読雑誌の一部を取り止めることにより捻出した資金で、非購読誌であっても論文単位で購読できるPPV(Pay Per View)の契約を行った。このPPV方式では、契約の有無にかかわらず、本学が所蔵していない論文等へもアクセス可能となり、効果的な情報を提供する環境が整った。

#### ③ インターネットによる学術情報の提供サービス

昨年度に引き続き、データベースや電子書籍の提供を行った。また、今年度は情報処理センターと連携し、教職員を対象に実施している学外からの電子リソースアクセスのサービスを学部生向けにも整備した。

#### ④ 学習等の環境整備

平成19年度から引き続き実施している日曜日開館について、学生の要望を踏まえて年間25日実施した。

入退館システムの更新により、図書館の滞在者数等を計測できるようになり、図書館サービス 改善への活用や、災害時等の安全確認もスムーズに行うことができるようになった。また、古く なったAVブースを廃棄し、利用講習会等を実施できるイベントスペースとして整備した。

# ⑤ 地域貢献

患者やその家族及び地域の方々へのサービスとして、図書館の一般公開及び近隣の公共図書館との連携による健康支援事業「めり一らいん」を引き続き実施した。具体的な取組としては、連携館と共同で一般市民向けの講演等のイベントを2回開催したところ、参加人数は延べ260名であった。また、昨年度に引き続き、病院内の健康情報室(アイブラリー)において、看護師とともに医学情報センター員が駐在し、図書等の医療情報を提供した。

# ⑥ 広報・教育・研究・診療支援

広報として、愛知医科大学公開講座との連携による展示や理事長等による推薦図書の企画展示を全6回開催し、学内外の利用者を対象に各テーマに沿った資料の紹介を行った。

教育・研究・診療支援として、全文入手方法や文献管理ソフトの利用講習会を13回開催し、延べ210名の教職員等が参加した。また、昨年度に引き続き、英語論文の執筆や投稿に関するセミナーを3回開催し、延べ84名の教職員等が参加した。2014年の研究業績を収集し「業績集データベース(RefWorks版)」を公開した。

教育支援として、医学部・看護学部の授業等において文献検索方法などのサポートを行った。 診療支援として、大学病院看護部と連携し、看護研究研修の中でサポートを行うとともに、新 人教育研修において、看護技術を動画とeラーニングで確認・習得するオンラインツール「ナー シング・スキル日本版」を用いた支援を行った。また、今年度は臨床医向けツールUp to D a t e をスマートフォン等で学外からもアクセスできるように整備し、併せて利用講習会等を行った。

# ⑦ 中・長期計画

平成23年度に策定した,向こう5年間(平成24~28年度)の図書館運営に関する中・長期計画(骨子)に掲出した項目のうち,利用者サービスに直接的に関わるものと,比較的短いスパンで行えるものから順次実施した。また,年次計画で進めるものについても,計画的に実施した。

#### 2 医療活動関連事業

大学病院では、「高度で良質な医療の提供」、「救急医療体制の充実」の2つの診療方針を掲げ実践するとともに、入院収入に大きく影響を与える手術件数、EICU、GICUの稼働率を医療安全に配慮しつつ高め、大学病院の経営改善を図り医療収入の確保に努めた。

特に、入院患者数においては、病院長の経営方針として、平日800人、週末720人の目標を掲げ、病院全体で取り組んだ。その結果、入院患者数745人、病院全体の病床稼働率89%(一般病床に限っては92.6%)となり、特に、1月から3月にかけては、平日800人を超える日が週に3日~4日あり、週末も700人台を維持する月もあった。入院診療単価は平成28年3月には70、115円と目標の70、000円を超え、本院の医療収入は310.5億円(前年比+35億円を確保し)、予算達成率は100.3%となった。

診療体制の整備として、救急医療、がん、生活習慣病、周産期医療、精神疾患など社会的要請の強い医療分野における診療体制を整備・充実して高度で良質な医療を提供するとともに、医療の機能分化政策に沿って高度急性期機能を担う特定機能病院としての機能強化、地域医療機関との連携強化を図った。

特に「救急医療体制の充実」として、これまで救急車搬送患者は救命救急科が中心となって対応し、また、夜間のウォークイン患者はプライマリーケアセンターで対応してきたが、平成27年度からは病院全体で救急医療を支える体制をとることが望ましいとの考えから、各科当直を廃止し、救急対応当直医を置き、救命救急科医師とともに救急車搬送患者に対応することとした。また専修医がプライマリーケアセンターを中心にローテートし、救急医療や一般外来を研修するとともに、救急体制を支える重要な役割を担うこととした。これにより、これまで以上に救急車搬送患者への対応が迅速となり、平成27年度の救急車搬送患者の受入は、前年度より24.6%多い5,535人となり、地域医療への貢献度が向上した。

また、新病院において導入した電子カルテ、総合物流システム、増床したICU系の病床、増室した手術室、新増設した放射線機器などの円滑な運用を図り、病院機能を最大限に引き出し、効率的で高収益体質の構築に努めた。さらにプライマリーケアセンター、入退院支援センター、総合物流センターの円滑な運営に努めるとともに、これらのハードを運用するために増員した医師、看護師、臨床工学技士を始めとするコ・メディカル職員、委託職員を有効活用し、安全で高回転な病院の実現に努めた。

医療法の改正(平成27年10月1日施行)により設けられた医療事故報告制度に適切に対応するため, 医療に起因し、予期しなかった死亡例については医療事故調査・支援センターへ報告するとともに, 院内では外部委員を加えた医療事故調査委員会を立ち上げて調査報告書を作成するシステムの構築や, 院内の全死亡例を把握することとしたほか、当院の独自システムとして手術等に関連した死亡例、重 大な後遺症例、予定外の再手術、大量輸血などを特異事例として院内報告するシステムを構築するな ど各種の医療安全の向上策を実施した。

医療法施行規則に基づく特定機能病院の承認要件である紹介率、専門医数、英語論文数、高度医療の提供・研修、救急医療体制の充実などの諸要件のクリアに適切に対応できるようにした。

更に, 医学部とは別に, 病院に病院倫理委員会を設置して, 生命倫理に基づいた臨床研究や医療の 実践に努めるシステムを構築した。

一方で、医療従事者の負担軽減策として医師当直の見直し、チーム医療の推進などが求められており、これら様々なニーズに的確に対応した。

# (1) 収入の確保

① 理学療法士,作業療法士の増員

新病院における集中リハビリテーション病棟の運用検討結果から、増加する心大血管リハビリテーション患者に対応し、実施単位数を増加させるため、理学療法士1名、作業療法士1名の増員を行い、医療ニーズに応えるとともに増収を図った。

#### ② 診療放射線技師の増員

新病院におけるハイエンドCT, 3テスラのMRI, PET-CTの導入等, 放射線関連装置の増設や診療内容の高度化に対応し, これらの放射線関連装置を効率よく稼働させ, 病院収益を増加するため診療放射線技師を増員した。

平成27年度は、3テスラのMRIの増設に伴う要員1名、一般撮影室の増設に伴う要員1名の増員を行い、医療ニーズに応えるとともに収益増加を図った。さらに医師の負担軽減のため、ポータブル撮影装置・手術室イメージ装置要員として1名の増員を行った。

#### ③ 臨床工学技士の増員

平成26年4月の診療報酬改定により新設された特定集中治療管理料2をGICUにて算定するためには、院内に臨床工学技士が常時(24時間)勤務していることが要件となり、当直体制が必要であることから、臨床工学技士3名を増員した。これにより夜勤明けの日常業務に支障がない体制をつくり、ICU系病棟・手術室等における医師の業務負担軽減を図るとともに、特定集中治療管理料2の算定を開始した。

#### ④ 後発医薬品の採用拡大

平成26年度の診療報酬改定によりDPCの機能評価係数IIの評価指数として後発医薬品係数が設定されたことへの対応として、後発医薬品の採用を増やし、平成28年1月から実際の規格単位数量での割合を60%に引き上げた。今後の国の方針は80%としていくこととされており、当院においても今後更に後発医薬品の採用品目の拡大を目指していく方針とした。

# ⑤ 病棟薬剤業務実施加算の算定

病棟薬剤業務実施加算は、薬剤師が病棟において医療従事者の負担軽減及び薬物療法の質の向上に資する薬剤関連業務として、入院患者の投薬・注射状況の把握、入院時の持参薬の確認及び服薬計画の提案、医療従事者からの相談応需、患者等に対するハイリスク薬等に係る投与前の詳細な説明などを実施している場合に算定することができるが、欠員が続いていた薬剤師の補充を行って病棟配置ができるようになり、医師、看護師の負担軽減を図るとともに加算を算定することができるようになった。

#### ⑥ 特別食加算の算定,予備食の廃止

特別食加算の算定率は対象症例の51%に留まっていたことから、電子カルテの入院時の食事情報画面の改善を図り、特別加算食の算定増加を図った。また、従来は緊急入院患者に対応するため毎食ごとに10食分の予備食を用意していたが、実際には提供した食数は30%程度であることから、食事変更によって生ずる余剰分を活用することとして、予備食を廃止した。

# ⑦ 病院経営コンサルトの活用

病院経営コンサルトを活用して、病院経営改善の効果が大きい7診療科について、在院日数、 医療資源投入額、加算の算定項目、コーディングなどのヒアリングを行った。症例数の多い疾患 について、他の大学病院本院とのベンチマークのデータを基に疾患特性を踏まえてパスを見直す ことにより、医療の質を落とすことなく診療内容の標準化・効率化による経営改善を図った。

また,病院経営コンサルトの経営分析・大学病院本院とのベンチマークデータに基づき,全診療科について入院・外来患者数,診療報酬請求額,入院診療単価,外来検査・画像診断単価,重

症度・医療・看護必要度、短期滞在手術等基本料などの経営指標を作成し、前年度と比較して院内に周知し、病院経営改善を促した。

#### ⑧ 病棟運用マニュアルの策定

病院経営の安定・向上を図るため、病床運用方針として「病床の1日単価の最大化」、「入院 患者の数の増加」を掲げ、速やかなベッド確保や転棟日、退院日の適正化、ベッドコントロール 権限の明確化などICU病棟や小児病棟などの病棟の特殊性も考慮したベッドコントロールの具 体的な手続きをマニュアル化した。

また、救急患者のベッド確保のため、HCUの満床時のベッドコントロールの方針についてもマニュアル化した。

#### ⑨ シルバーウィーク対策

平成27年9月の5連休のシルバーウィークにおける入院患者及び入院収入の落ち込みを防ぐため,5連休の初日を中心に新入院の受入,予定手術,検査,リハビリテーションを実施し,病院の経営改善を図った。

⑩ 特別室を利用した人間ドックの開始

ホスピタリエ (病棟コンシェルジュ) を配置している14階の特別室Aを利用して,クオリティーの高い療養環境,最高のサービス,静かで落ち着いた雰囲気の中でゆっくりと受けていただける大学病院ならではの最先端の人間ドック (1泊2日コース)を開始した。

① 入院・外来患者満足度調査の実施

入院・外来患者を対象として実施した満足度調査について旧病院との比較も含めて結果をまとめ、公表した。外来では、NAVIT(外来患者案内システム)はとても便利であると好評で待ち時間短縮につながっており、最先端の医療機器、医療技術による検査や治療への期待が高かった。また、受付から診察までの電子カルテによる新システムの運用は好評であり、医師・看護師等の対応も概ね良好であったが、薬局については外来患者増加やNAVITが対応していないことから待ち時間が長く感じるとの割合が増えていた。

入院では、入退院支援センターでの説明やベッドコントロールが好評であり、病室・談話スペース・施設設備など新病院全体の満足度が増していたが、設備の使用説明や看護方針の説明がないなどの不満もあった。また、退院時期が早すぎるとか、転院先がないなどの意見もあり、医師・看護師による早い段階からの説明や入退院支援センターの機能強化が望まれる結果となった。

(12) レンタルパジャマの導入

かねて入院患者から要望が多かった入院患者のレンタル化について、パジャマ・バスタオル・フェイスタオルのレンタルを開始し、患者サービスの向上を図った。

③ 看護師リーダー・医事課員への病院経営に関する研修会の開催

病床稼働率の向上には,看護師の協力が不可欠であるため,主任看護師への病院経営意識向上を目指すとともに,医事課員とのコミュニケーション強化を目的に「看護師が病院経営に貢献するには」と題した病院経営に関する研修会を5回にわたり実施した。また,看護部として「平成27年度主任経営研修課題報告会」を開催し,部署ごとに経営改善へのアクションの成果発表を行った。

# <組織整備>

# (2) 臨床研究支援センターの設置

これまで、当院では治験管理センターで企業主導治験のサポート業務を中心に行っており、医師主

導臨床研究に関しては、先端医学研究センターの臨床研究推進室が支援する体制をとってきた。しかし、厚生労働省は「臨床研究に係る制度の在り方に関する報告書」を公表し、文部科学省は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を制定するなど臨床研究に関する環境が大きく変化してきている。

当院においても、これら環境の変化に対応するため、治験管理センターの機能を広げ、病院における臨床研究の受入・契約・管理業務、人を対象とする臨床研究の研究計画・研究登録・公表の支援、情報管理、モニタリング、統計解析、情報交換等の支援などを行う組織として従来の治験管理センターを発展的に改組し、中央診療部の一つとして臨床研究支援センターを設置した。従来の治験管理業務に臨床研究及び臨床試験に関する業務を加え、その業務の中心的役割を担う人員として、生物統計を専門とする教員、データマネージャーを新たに配置し、研究ニーズに応えるとともに増収を図った。

#### (3) 先制・統合医療包括センターの設置

がんの罹患頻度は年々増加し、日本人の死亡数最多原因疾患となっている。健康寿命を更に延伸させる施策として、生活習慣病予防を未病の段階から早期にリスク診断することにより、個々人の将来の健康状態を予測し、先手を打つことで意識付け・行動変容を惹起させ、生活習慣病を予防・改善・治癒に導くことが求められている。

これらの医療ニーズに対応するため、中央診療部の一つとして先制・統合医療包括センターを設置して専門外来を開設し、これを担当する教授1名を増員し、事務業務を担当する臨床技術員1名を配置した。単なる予防医療ではないSelf-medicationと、これに基づいたテーラーメイド医療を提供することが可能となった。

#### (4) 栄養治療センターの設置

入院患者の栄養障害は、その病態の回復に悪影響を与え、創傷治癒の遅延、免疫能の低下などにより術後合併症や感染症の発生率が上昇することがわかっており、これにより、在院日数の延長、ひいては入院コストの増大といった病院経営上、看過できない問題を生じる要因となっている。栄養不良状態にある入院患者に対して適切な栄養治療を行うことで、治療成績を高め、在院日数の短縮、医療費の削減につなげることができる。

従来、栄養スクリーニングを含む栄養状態の評価、栄養管理が必要と医学的に判断される患者の栄養管理計画の作成、定期的な評価など、栄養治療の支援を栄養サポートチームが担ってきたが、栄養管理体制の中心的な役割を担うため、中央診療部の一つとして栄養治療支援センターを設置した。

特定機能病院基本入院料の施設基準のうち、栄養管理体制については、管理栄養士を始めとして、 医師、看護師、その他の医療従事者が共同して栄養管理を行う体制が整備されており、栄養スクリーニングを含む栄養状態の評価、栄養管理計画、定期的な評価を行うこととされている。また、特別な栄養管理が必要と医学的に判断される患者について、栄養状態の評価を行い、医師、管理栄養士、看護師、その他の医療従事者が共同して、当該患者ごとの栄養状態、摂食機能及び食形態を考慮した栄養計画を作成することとされている。これらの活動を行う栄養サポートチームの中心的役割を担う人員として専任の助教1名を増員した。

# (5) 腎移植外科の設置

わが国の慢性腎不全医療を打破するために、当院においても腎不全患者に対する包括的な医療体制を確立し、腎移植を可能な限り多くの方に安全に確実に行う事を目的として平成24年4月に臓器移植外科寄附講座が設立された。

愛知県を始め中部地方、九州地方を含めた多くの透析施設と連携し、患者を受け入れ、内科・外科

の一貫した腎移植医療体制により、年間約30件の腎移植手術が実施されるなどの実績をあげてきたが、 寄附講座の設置期間は3年間とされたことから、病院として腎臓移植を継続していく体制整備として、 外科学講座の中に腎臓移植外科を設置し、教授1名、助教2名を増員した。

#### (6) 眼形成・眼窩・涙道外科の設置

当院における眼形成外科領域は、眼科学講座の専門診療班として眼瞼下垂や下眼瞼内反症、眼瞼腫瘍眼窩腫瘍、眼窩壁骨折、涙道疾患など眼形成疾患全般に満遍なく対応してきており、解剖学的エビデンスや発症病理に基づき、視機能と美容に配慮した手術を行っていることから、地域の医療機関からの紹介患者も多く、良好な手術成績をあげてきた。

眼形成外科領域は、形成外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、歯科口腔外科などとの境界領域であり、 治療に当たっては連携が必要であり、本学の特色ある治療、教育研究分野を充実させるため、眼科分 野の発展的な教育・研究・診療の組織形態として眼形成・眼窩・涙道外科を設置し、教授(特任)1 名、准教授1名、講師・助教2名、臨床技術員1名の定数を配置した。

# (7) 臨床腫瘍センター

臨床腫瘍センターは、がん診療を総合的に行うために学内のがん診療のまとめ役と臨床試験や治験を含めた臨床研究のサポートを行い、先進的治療の推進を担当している。現在、腫瘍外科部門、腫瘍内科部門、外来化学療法部門から成り立っているが、新たに緩和医療部門を新設し、がん診療拠点病院を目指すこととした。そのため緩和ケア専従医師として、准教授1名を増員し選考を開始した。さらに、腫瘍外科部門に助教1名の増員を図り、がん診療拠点病院指定への体制整備を行うこととしている。また事務業務を担当する臨床技術員1名の配置も行った。

#### <人的整備>

#### (8) 医療安全管理室への専任医師の配置

特定機能病院として安全な医療を提供するためには、医療の質の向上はいうまでもなく、医療安全管理体制を整備することが求められている。特に大学病院においては、高度先進医療を基盤としていることから、医療安全管理体制の充実を図ることの重要性は大きく、医療安全管理室は、病院長直轄部門として、院内のあらゆる部門と連携をとりながら、医療安全の推進に努めている。医療安全部門に専任医師を配置し、事故発生時の初動体制を充実し、被害を最小限に留めることができる可能性も大きくなり、さらに再発防止対策の向上など大学病院の医療安全対策の向上を図った。

# (9) 若手医師(臨床研修医・専修医)の確保対策

本学病院が大学病院として適切に機能し永続的に発展していくためには、若手医師(特に臨床研修医)の安定した確保が必要不可欠であることから、特に、臨床研修の1年目で、病院の近くに住居を構え、臨床研修に専念しようとする者に、住居費の補助を継続して行った。

また、卒後臨床研修制度の義務化後の初期臨床研修修了者の専門研修制度(後期研修制度)は、志望する診療科及び関連領域において、十分な専門知識と技能を習得することを目的として社会ニーズに応えるとともに、本学の将来を担う若手医師の確保対策として、後期研修制度の充実により専修医の確保を図った。

# (10) 診療活動の活性化対策

新病院の診療体制の強化に向けて、大講座制をとる内科学講座、外科学講座の定数見直しを図り、 専攻分野単位で1講座の扱いとして、専攻分野ごとに教授1、准教授1、講師・助教3を基本とした。 これにより内科学講座及び外科学講座の体制が強化され、教育・研究・診療の活性化が図られると期 待される。両講座で合わせて准教授4名、講師1名を順次増員することとした。 放射線検査件数の増加に対応するとともに、診療業務の効率化と安全性向上の観点からは、読影を 遅滞なく行って診療効率を上げ、新病院のコンセプトである「1日で結果の出る外来」を実現するた め、また増設したCT、MRIをフル活用して増収を推進するため、放射線診断医を2名増員した。

プライマリーケアセンターの設置目的である,外来診療の効率化,救急医療の円滑化,プライマリー教育の充実を図るため、特任教授1名を配置した。

救命救急センター及び周術期集中治療部の診療充実,救急患者数増への対応に必要な医師確保を図るため,医師を派遣する2診療科に助教2名を増員した。

周産期母子医療センター新生児集中治療部門では、NICU当直に加えて、宅直を配備することで、夜間の新生児搬送に対応でき、産科開業施設のニーズにも応えられるよう、助教を1名増員した。

#### (11) 看護師の確保対策

新病院での重症系病棟の増床に対応して診療機能を発揮することや、看護関連施設基準(7対1看護、特定入院料など)の維持は病院経営にとって必須事項である。7対1看護は実際に病棟で看護した労働時間が、特定入院料は患者数対看護師数が常時基準を満たしていることが求められる。また、看護師確保の面からは「手厚い看護と安全な看護」を実現できることが選ばれる病院条件の一つとなっている。そこで、産休、育休及び研修等による休職者を除いた実働人員の看護師数の確保に努めた。看護師の増員により、特定入院料算定病棟のGICUにおいては28床中の26床が稼働し、EICUにおいては12床全床が稼働し、また中央手術室も19室すべてを使用し同時の並列で17室を稼働できる体制となった。

#### <システム整備>

#### (12) 総合物流システムの再構築事業

新病院の物流については、3つの基本コンセプト(①患者さんにフォーカスした物流、②全ての物品に対して安全性を担保した物流、③効率性・有効性を追求した物流)を基に、SPD委託業者と運用に関する詳細な詰めを行うとともに、医薬品、医療材料等カテゴリー別・部署別・時間帯別等の搬送計画、医療情報システムとの連携、医薬品カード管理・医療材料定数管理等、新病院での運用全般について、各部署や搬送委託業者とのヒアリングや調整を行い、総合物流システムを導入した。

新病院の開院時には医療情報システムとの連携が図られなかったため、物品の「払出数と消費数との差」、「消費数と医事請求との差」が把握できないなど、本来の消費なのか、廃棄・破損・紛失なのかなど、請求漏れ防止、物品のムダの削減等、総合物流システムの導入は病院経営に大きな効果が期待されながら実情は多くの課題が発生している状態であった。

そこで、医薬品の発注システム、中央手術室の医療材料の在庫管理・支払管理システムを導入し、 また医療情報システムとの連携した院内物流システムの選定を行い、次年度に契約し導入することと した。

# (13) 医療情報システム機能改善事業

医療情報システムは、平成26年5月の新病院開院後、概ね順調に稼働している。本事業では、血液型検査同一オーダーチェック機能の構築、過去診察済一覧機能の構築を行うことで、医療情報システムの機能をより向上させ、更に医療安全面の向上も図ることができた。また、放射線待機医師用の電子カルテ端末を追加導入し、病院外からも放射線画像の読影を行えるようにした。

# (14) 先進医療推進事業

先進医療は、厚生労働大臣が定める高度な医療技術を用いた療養であり、その有用性、安全性等を 評価し、保険診療として妥当なものかを判断する上で重要なものである。本学病院は数種の先進医療 の認定を受けているが、これをさらに推進することは、大学病院として医療水準の向上に重要である。 しかし、先進医療の認定を受けるためには、医師個人及び医療機関における自由診療段階での実績 が必要であるが、自由診療は患者にとって経済的負担が大きいことから、認定取得が困難な要因とな っている。平成25年度から当事業を開始し、泌尿器科のロボット支援腹腔鏡下の膀胱全摘除術を2例、 腎部分切除術を10例行った。また歯科口腔外科では「自己歯髄由来幹細胞を用いた骨再生療法の開発」 を先進医療として申請するための症例を集めている。本学病院は基本方針のひとつとして、「先進医療技術の開発・導入・実践の推進」を掲げており、これを推進する観点から、病院として実績作りに 必要な経費を支援した。

#### (15) 病院戦略的広報活動事業

# ① 新任教授紹介の広報

平成27年度に新たに就任した5人の教授の専門分野,手術などの診療実績,診療方針,経歴, 抱負,インタビュー動画,写真等も織り交ぜ,分かりやすい内容で紹介するホームページを作成 するとともに,同様の内容でパンフレットを作成して登録医,病病連携病院,消防機関,外来患 者等に配布して新任教授の広報を行った。

#### ② 東海テレビこどもまつり2015への参画

東海テレビ主催による「こどもまつり2015」の職業体験コーナーにおいて、「外科医に挑戦 (内視鏡手術器具・聴診器の体験)」に出展した。子供たちにとって普段は体験することのでき ない医療機器を医師・看護師の説明、指導の下に体験し、医療への関心を高め将来の自身の進路 を選択する際の一助としてもらうよう働きかけを行うとともに、当院のイメージアップにも貢献 した。

#### ③ 東海テレビ年末特番の放送

新病院を開院して2周年を迎えようとする平成27年の年末に、東海テレビ放送の年末特別番組「救命救急!レンズが震えた瞬間」(医療の未来を切り拓く熱き挑戦者たち)の製作協力をした。番組は地域医療の中で担っている高度急性期病院としての当院の役割について医療チーム、患者、地域の人々との交流を軸に描いたもので、ドクターへリの出動、高度救命救急センターでの救急対応、救急搬送された患者のハイブリッド手術、放射線治療装置トゥルービームによる肺癌患者の治療、病病連携カンファレンス、感染制御カンファレンス、長久手市長が語る当院への地域医療リーダーとしての期待など100時間の密着取材を通じた病院関係者の人間ドキュメントとして放送された。加えて、番組を収録したDVDを作成し、関係機関や来院者に配布し広報に努めた。

### (16) メディカルクリニック活性化対策

#### ① 電子カルテの活用

医師及び患者にとって本学病院と同様の環境を実現することにより、大学病院の附置施設として、安全で、高度で良質な医療を提供することとし、一方、患者待ち時間の短縮、インフォームドコンセントへの対応、患者情報の管理、転記及びカルテ搬送業務の削減等患者サービスの向上に努めた。さらにカルテ・X線フィルム等について保管場所の削減やフィルム等の抽出作業の削減を行うとともに、診療報酬請求の発生源入力等経営効率を改善にも努めた。

#### ② 駐車場増設のための隣地取得

メディカルクリニック敷地内駐車場(17台分)及びCBCパーキング(約15台分)の混雑解消と患者さんの利便性向上のために隣接地(名古屋市東区東桜二丁目1106番地)147.56㎡を取得し

7台分の駐車スペースを確保した。

# (17) 病院機能評価受審事業

大学病院は、特定機能病院として病院機能評価の認定を受けることが必須要件となっている。当院は平成17年に初めての病院機能評価の認定を受け、以降5年毎に更新の審査を受けることになっている。次期更新時期が平成27年10月であったことから、同年9月に審査を受け、更新が認定された。

#### 3 新病院建設関連事業

平成19年に理事会承認された21の一連の事業計画の内、核となる新病院建設工事が完了し、残るA B病棟等解体工事をはじめとする周辺整備事業を行った。AB病棟等解体工事の工期を2ヶ月延長す ることにより、平成27年5月25日理事会で補正予算として承認された大学南側取得用地造成(駐車場 整備)工事による発生残土をAB病棟解体跡地の埋戻し土に、AB病棟等を解体して発生したコンク リートガラを再生し、駐車場整備工事の路盤として相互に再利用することが可能になり150百万円以上 の経費節減となった。

中央棟(新病院)は、AB棟に比べて床面積が約1.5倍となることから、光熱水費等のランニングコストの増大が懸念されたが、新病院ファシリティーサービス事業による最新の設備と省エネ対策、さらには、電気、ガスの単価引き下げの恩恵も受け、光熱水費は前年度実績と比較して138百万円以上の節減となった。また、新病院と旧病院を実質的に比較できる平成25年度実績との比較においても、43百万円の節減となっている。

# (1) AB病棟等解体工事

AB病棟等解体工事については、平成26年12月20日に『AB病棟等解体工事』に係る近隣説明会を 開催し平成27年1月より解体工事に着手し、平成28年5月末の完了に向け工事を進めている。

# (2) 汚水等貯留槽改修工事(1年次目)

排水の公共下水道化に伴い,敷地内の配管切替を順次実施し平成28年2月にすべて下水道への放流 切替が完了した。浄化槽の廃止手続きも平成28年3月で完了した。(2年計画1年目)引き続き,災 害時等に下水道本管が機能停止した場合にも病院運用を継続できるよう既設浄化槽を緊急汚水貯留槽 とする改造を行ってる。(平成28年8月末完了予定)

#### (3) 新病院建設等資金

新病院建設等資金として借入れた福祉医療機構資金,私学共済事業団資金について,約定どおり順次返済した。(844,346千円)

# (4) 新病院建設に伴う寄附金募集

平成23年度から開始した寄附金募集については、平成27年度の目標額を2億円とし、これまでの主に教職員、父兄及び同窓生への依頼から本学関連企業へと軸足を移しての募金活動を実施、さらに、従来、医学部の教育・研究の充実及び設備整備資金として募集を行ってきた「教育研究事業寄附金」を、平成25年度からは、「新病院建設を中心としたキャンパス整備事業寄附金」に一本化して募金活動を行った。その結果、85、014千円の寄附金が集まった。

引き続き、こうした活動を本学取引業者の本学事業への賛同、同窓生・在校生父兄との絆、教職員の意識改革等今後の本学の寄附金制度の定着を図る活動とし、ひいては寄附文化の醸成に繋げていく。その一環として毎年年1回実施している「新病院建設募金感謝の集い」を平成28年2月20日に開催したところ、盛会であった。

# 4 大学運営関連事業

#### (1)組織整備

学校教育法の改正により副学長の職務が拡充されたことも踏まえ、学長が最終的な決定権を行使するに当たり、副学長(学部長等)の意見を聞く場として、従来の「大学評議会」組織の見直しを図った。この結果として、学長と副学長を中心に教育・研究・診療に係る重要事項及び将来構想等を審議する為の新たな審議組織「大学運営審議会」を平成28年4月1日にて開設することとした。

また、医学部に次の五つの寄附講座を設置し、それぞれの設置目的に合わせた運営を行ったが、地域救急医療学寄附講座は、平成27年度末をもって6年間の設置期間を満たし役目を終え、新たに腎疾患・移植免疫学寄附講座を開設した。

• 造血細胞移植振興寄附講座 (設置期間: H20. 4.1~H29. 3.31)

• 分子標的医薬探索寄附講座 (設置期間: H24. 4.1~H29. 3.31)

・ 腫瘍免疫寄附講座 (設置期間: H24.4.1~H30.3.31)

・ 腎疾患・移植免疫学寄附講座 (設置期間: H27.4.1~H30.3.31)

• 地域救急医療学寄附講座 (設置期間: H22.4.1~H28.3.31)

# (2) 地域連携関係

# ① 公開講座

愛知医科大学公開講座として、「体のトラブル対処法」をテーマに、平成27年9月12日(土)・19日(土)・26日(土)に計3回の公開講座を開催した。公開講座では、計7名の講師が講演し、参加者は延べ495名であった。

また、例年、日本福祉大学と共催開催している「長寿社会フォーラム」を公益財団法人長寿科学振興財団の助成を受けて、「長寿たすけ愛講演会2015in名古屋」と題して、平成27年9月4日(金)に共催開催した。講演会では、本学元学長の祖父江逸郎名誉教授の他、落語家の春風亭小朝氏の講演が行われ、800名の会場がほぼ満席となり大盛況であった。

更に、平成28年2月13日(土)には、イーブルなごやホールを会場に、名古屋市教育委員会と 連携するかたちで「愛知医科大学における最先端研究・医療」をテーマとした市民大学公開講演 会を開催し、2名の講師が講演するとともに、215名の参加があった。

#### ② 長久手市との連携事業等

平成24年1月に連携協定を締結した長久手市との連携事業の一環として、平成27年11月28日 (土)に長久手市文化の家において、「"ひざの痛み"なくして伸ばそうあなたの健康寿命!」と題した講演会を開催し、84名が参加した。なお、同講演会には、事前申込みにて定員(100名)を大きく上回る220名からの応募があり、抽選を行うほど盛況であった。

③ 長久手市及び株式会社長久手温泉との連携事業等

平成25年5月に連携に関する覚書を締結した長久手市及び株式会社長久手温泉との連携事業の一環として、平成27年6月21日(日)に健康増進イベント「痛みらくらく教室・長久手スタイル」を開催し、市民30名が参加した。

④ 北名古屋市との連携事業等

平成24年1月に連携協定を締結した北名古屋市との連携事業の一環として、平成27年11月23日 (月・祝)に、北名古屋市健康ドームにおいて開催された「ふれあいフェスタ2015」に、看護学部の学生ボランティア4名と教員2名が参加した。

⑤ 尾張旭市との連携事業等

平成25年10月に連携協定を締結した尾張旭市との連携事業の一環として、前年度に引き続き、病院広報誌「たちばな」を市役所等の窓口に設置していただくとともに、尾張旭市文化協会加盟団体による写真展及び川柳展を、中央棟2・3階の壁面展示スペースに、平成27年7月、8月及び12月から平成28年3月にかけて6ヶ月間展示をした。

#### ⑥ 愛知県災害医療コーディネート研修

平成26年11月1日に開設した災害医療研究センターの事業の一環として、平成28年1月30日 (土)・31日(日)に愛知県医師会館において、本学を始め、愛知県及び愛知県医師会の三者共 催による「平成27年度愛知県災害医療コーディネート研修」を開催した。

県内における医療調整機能の強化を図ることを目的として,災害時に医療チームの派遣調整, 患者の受け入れや搬送の調整を担当する医師等,2日間で91名を対象に実施され,災害医療ACT 研究所の方々を講師として,各地域の災害想定等を地図に書き込みながら,救護計画の策定や本 部運営・救護班調整演習等を行った。

# ⑦ わくわく体験リニモツアーズ

東部丘陵線(リニモ)の沿線施設の魅力を満喫し、学び楽しむイベント「わくわく体験リニモツアーズ2015」(東部丘陵線推進協議会主催)が、中学生以下の児童を対象に開催され、本学においても、平成27年8月10日(月)、11日(火)、17日(月)の3日間、「"コードブルー"の世界 救急医療について学び、考えてみよう!」と題した体験講座を開催した。幸いにも全日程でドクターへリの見学会を実施することができ、毎回多数の応募者の中から抽選(当選倍率:9倍以上)により当選した児童及び保護者の方が参加した。

#### ⑧ 愛知県陶磁美術館大学等パートナーシップ

愛知県陶磁美術館との間で、大学生等が陶磁文化に親しみ学ぶ機会を提供するため、平成23年 12月に「愛知県陶磁美術館大学等パートナーシップ」事業を締結し、学部生・大学院生に対して 利用案内を行っているが、平成27年度の利用者は、医学部生2名のみであった。

# (3) ホームページ関係

平成24年10月の全面リニューアルから3年目となる平成27年度については、スマホサイトの拡充を進めたことにより、サイト閲覧数が飛躍的に増加した。ホームページ全体のアクセス状況としては、前年度比として若干の増加ではあったが、新病院開院後1年を経過し来院数が増加してきたこと、また、各種広告媒体を活用しPRに努めた結果、ホームページの新規利用者数が10%程度増加した。

また、平成29年10月をもってリニューアル後5年が経過するため、平成28年度中に次期リニューアルの検討を進める予定である。

### (4) バス運行事業

平成26年に名鉄バスを導入するとともに、新たにスクールバス南北路線を開設し、約2年が経過している。この間、利用者数の実績及び利用者からの要望を踏まえ運行時刻の改正を行ってきたが、利用者の利便性の更なる向上を目的とし、平成28年4月1日からの運行時刻の見直しを図った。また、利用者数としては、北路線が前年度比131.1%、南路線が前年度比154.6%であった。

今後のバス事業の方向性として、A・B病棟等取り壊し後の跡地にバスターミナルを整備して、本学を結節点(ハブ化)とする交通ネットワークを構築することなどが計画されていることから、運行ルート・運行ダイヤ・ターミナル運用方法などハブ化構想の具体化に向けて、関係部署・機関との検討を進めている。

#### (5) 男女共同参画事業

愛知県医師会との共催事業として、平成27年11月18日(水)に本学を会場として「医学生、研修医等をサポートするための会」を開催した。同会は、医学生や研修医の時期から男女共同参画やワークライフバランスについて明確に理解することを目的として、平成21年度から県内の医科系大学により実施されている。当日は、本学における女性医師支援の現況報告や実際に保育所を利用している教員による講演が行われ、医学部学生や研修医を始め、教職員など約70名が参加した。

また、医学部学生に対し、女性医師の置かれている状況やキャリア形成の必要性等について教育を行うことを目的として、平成28年2月18日(木)に「キャリア教育講演会ーこれからの女性医師のキャリアアップー」と題した講演会を開催し、女性医師2名(同窓生及び学内教員)による講演を行い、医学部学生25名が参加した。なお、本事業は愛知県からキャリア教育推進事業として補助金が交付された。

#### (6) 総務関係

# ① 雑誌スポンサー契約

長久手市立図書館及び尾張旭市立図書館から、図書館サービスの充実のため、雑誌スポンサーの募集があったことから、広報活動の一環として、それぞれ雑誌の年間購読契約(6誌)を締結しており、平成27年度においても同契約を継続した。

#### ② 新任教授紹介新聞広告

平成27年度に新たに就任した教授4名の紹介を通じて、来院患者数の増加を促進し、他の医科系大学との差別化を図り、大学・病院のイメージアップに結び付けるため、平成27年11月27日 (金)に中日新聞朝刊全15段カラー広告(中部7県約270万部)を掲載した。

#### ③ 名鉄バス藤が丘バス停上屋広告

藤が丘駅前名鉄バス4番のりば(愛知医大病院行)に、広告付きバス停上屋が設置されることに伴い、平成28年1月11日から平成29年1月9日までの1年間、地域に根付いたコミュニケーションサインとして大学・病院をPRするためのポスター広告を掲載することとした。なお、同広告は3月毎にデザイン変更が可能であり、各種事業時期に併せてステークホルダーへのPRを図ることとしている。

#### (7) 研究活動等

平成27年度における科学研究費の採択件数及び受入れ金額,受託研究費,共同研究費及び一般財団等からの研究助成の受入れ件数・金額等は,以下のとおりであった。

#### • 科学研究費

文部科学省等 92件 144,420千円 (前年度比107.1%) 厚生労働省 1件 52,200千円 (前年度比 17.2%) ・受託研究費 40件 124,383千円 (前年度比106.1%) ・共同研究費 14件 21,070千円 (前年度比100.4%) ・研究助成 10件 11,950千円 (前年度比 38.6%)

また、奨学寄附金については、460件、280、269千円(前年度比106.4%)の申込みがあった。本学を含む中部地方の10大学・2センターで結成した「中部先端医療開発円環コンソーシアム」(以下「円環コンソーシアム」という。)と連携した文部科学省の「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」(拠点:名古屋大学)の平成27年度支援シーズA(2年以内に関連特許出願を目指す基礎研究課題)に、本学から3件(計5、000千円)が採択された。また、円環コンソーシアムの活動の一環として、平成28年2月3日(水)~4日(木)には、名古屋市中小企業振興会館にて開催された円環

コンソーシアム等の主催事業「メディカルメッセ」に出展し、本学の研究について広報活動を行った。 平成28年度科学研究費助成事業(若手研究(B))の採択を目標に、科研費申請数増加プロジェクト(Jump up作戦)を実施し、若手研究者45名に対して申請支援を行い、平成28年度交付内定者は4名であった。また、平成27年度科学研究費助成事業に申請し、不採択となった課題のうち、審査結果がA評価(不採択のうち、上位20%)であった者12名に対して研究費の助成を行った。その結果、昨年度の申請件数128件から182件へと大幅な増加をした。

平成27年10月13日(火)には、本学本館701会議室において、先端医学研究センター第15回研究セミナーを開催した。このセミナーは、若手研究者の育成支援・研究活動の促進を目指しており、本学で研究に取り組む3名から自身の研究活動のきっかけ、研究への取り組み方、研究成果及び今後の展望などについて発表があり、若手研究者を中心に約30名の参加があった。

#### (8) 公的研究費等の不正使用防止に関する体制整備等

平成28年3月に,「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(2014年8月26日文部科学大臣決定)に基づき,本学における研究活動上の不正行為を事前に防止し,公正な研究活動を推進するため,平成27年度中に受講が義務付けられている者155名に対して研究倫理教育を実施した。

#### (9) 知的財産関係

本学が特許出願していた「断層画像処理装置および断層画像処理方法」(発明者:山内雅人主任 (中央放射線部))について、審査等が完了し特許登録(特許第5800177号)された。また、同様に本 学が特許出願していた「高硫酸化コンドロイチン硫酸類の合成方法、高硫酸化コンドロイチン硫酸類、 および解析用試薬」(発明者:杉浦信夫准教授(分子医科学研究所))についても、特許登録(特許 第5885136号)された。

平成27年10月29日(木)にJST東京本部別館ホールにおいて、「関西・東海地区医系大学新技術説明会」が開催され、中出幸臣講師(肝胆膵内科)が「コノフィリンによる肝脂肪化改善」について技術説明を行った。

#### (10) 引当特定資産の組入

平成27年度に一般財団法人愛知医科大学愛恵会から受けた特定寄附金について,その趣旨を踏まえ,本学の今後の事業に資金を活用するため以下の引当金を設定した。

#### ① 国際交流推進引当資産の組入れ

平成29年度以降の国際交流の推進に充当する経費として、引当計上した。 (60,000千円)

### ② 教育研究活性化引当資産の組入れ

平成29年度以降の教育研究の活性化に充当する経費として、引当計上した。 (45,000千円)

#### 5 施設設備関連事業

#### (1) 大学南側隣地用地取得事業

将来的な駐車場不足対策として、利便性が高く大学キャンパスとして一体化が可能な駐車場用地として整備するため、本学南側隣接地(21,290㎡)の土地取得計画を立て手続きを進めてきた。平成25年度から地権者に対して条件提示・価格交渉を進め、平成27年度は、取得予定地の一区画を残し、概ね取得(19,928㎡,取得率93.6%)することができた。(303,908千円)

#### (2) 大学南側取得用地造成工事等事業

取得予定地を概ね取得できる目途が立ったことから、これを職員駐車場として整備する工事について、平成27年5月25日理事会で補正予算として事業承認を受け、平成28年6月の完成を目指して工事は順調に進んでいる。(47,025千円)

#### (3) 事業所内保育所 (アイキッズハウス) の増築事業

平成21年4月に入所定員30名で開設したアイキッズハウスは、例年、応募者が多く抽選により入所者を選定してきており、入所できなかった職員から定員増の要望が寄せられていた。そこで、職員に対する便宜を図るため、施設を増築し、入所定員を30名から50名に増員した。これにより育児休業からの復職日の延長事例が減少し、育児休業明けの復職が円滑になり、女性臨床医に対する女性医師枠確保も容易になると期待されている。今回の増築部分には病児室を設置し、病児保育の受入も可能となった。また、平成28年度には、夜間保育の実施も計画されている。(93、153千円)

#### (4) 特高変電所変圧器等更新事業

特高変電所の監視盤などに収納されている伝送機器は、設置から16年経過しているとともに、メーカーからの部品供給期限が切れており、経年劣化による異常が発生すれば機器状態、故障の監視ができなくなり、巡視点検強化のための人的確保が必要となることから伝送機器等の更新を2年計画で進めてきた。初年度計画分が予定どおり完了し、本学全体の電源供給の信頼性が向上した。(32,184千円)

# (5) 5号館エレベータリニューアル工事事業

5号館(総合実験研究棟)のエレベータを油圧式からインバータ制御(ロープ式)へリニューアルした。油圧部品故障による停止等のリスクを軽減し、安全性を確保することができ、騒音・揺れが軽減し、快適性が向上した。更に、インバータ制御化することで、省エネによる電気料金の削減が図れた。(14,256千円)

#### (6) 中央棟及びCD棟サイン追加工事事業

中央棟及びCD棟のサインについて、院内サイン検討ワーキングでの結果を踏まえ、運用に合わせて整備することで、患者の案内サービスの向上を図るとともに、スタッフの業務の円滑化が可能となる機能的なサインに改善した。(1,490千円)

# (7) キャンパスマスタープラン作成業務事業

新病院建設事業は最終段階を迎え、今後の課題は、キャンパス内に昭和47年の開学当時から使用されている研究施設や実験施設が分散し、病院機能と研究施設機能の連携が図りにくい状況にあるといった、敷地全体に係る課題への対応となる。そこで、各施設における問題点、使い勝手の改善点など、現在のキャンパスが抱える課題を抽出し、今後の医療を取り巻く社会環境の変化や教育・研究に求められるニーズの変化にも柔軟に対応できるキャンパス計画の方向性を示し、継続して議論を進めるための「マスタープラン」を策定した。

このプランでは、教育・研究・診療の発展、さらには患者、スタッフや地域住民の利便性、快適性、

安全性向上を図る拠点施設の形成等を基本方針とし、大学、病院に望まれる機能を特定、その高度な機能連携を実現する形をゾーニング計画として、関連法令をクリアしながら、教育ゾーン、研究ゾーン、診療ゾーン、その他の施設の配置イメージをまとめ、最終的に、平成28年5月の完成を目指している。

# (8) 2号館・3号館機械室アスベスト撤去工事

2号館,3号館の機械室内の天井・壁の吹き付けアスベスト対策として,当室を施錠し入室時は防塵マスクを着用するという運用を行ってきたが,経年劣化によりアスベストが飛散する危険性があるため,アスベストによる健康被害を防止するため撤去工事を行った。(8,100千円)

- 6 学部・大学院関係
- (1) 平成27年度入学生

医学部 113名(内推薦入学者24名)

看護学部 104名(内推薦入学者32名)

大学院医学研究科29名大学院看護学研究科11名認定看護師教育課程感染管理分野21名

救急看護分野 13名

(2) 平成28年度医学部入学試験

公募制推薦入試 (試験日:平成27年11月21日)

志願者83名,受験者82名,合格者25名

一般入試

1次試験 (試験日:平成28年1月19日)

志願者2,186名 (前年度比99.0%)

受験者2,121名 (前年度比99.6%)

第2次試験受験資格者424名

実施会場: 4会場(本学, 東京, 大阪, 福岡)

2次試験 (試験日:平成28年1月28日, 29日)

受験者401名

正規合格者149名,繰上合格者175名

実施会場:本学

大学入試センター試験利用入学試験

1次試験 (試験日:平成28年1月16日,17日)

志願者659名 (前年度比94.1%) 受験者651名 (前年度比94.2%)

第2次試験受験資格者253名

2次試験 (試験日:平成28年2月10日)

受験者128名

正規合格者29名,繰上合格者25名

愛知県地域特別枠入学試験

1次試験 (試験日:平成28年1月16日, 17日)

志願者57名 (前年度比132.6%)

受験者57名 (前年度比132.6%)

第2次試験受験資格者44名

2次試験 (試験日:平成28年3月10日)

受験者35名

正規合格者10名、繰上合格者9名

(3) 平成28年度大学院医学研究科入学試験

1次募集 (試験日:平成27年10月2日)

受験者14名 合格者13名

2次募集 (試験日:平成28年2月5日)

受験者25名 合格者25名

(4) 平成27年度看護学部入学試験

推薦入試 (試験日:平成26年11月8日)

社会人等特別選抜 (試験日:平成26年11月8日)

志願者8名,受験者8名,合格者1名

一般入試 (試験日:平成27年1月25日)

志願者550名 (前年度比104.4%) 受験者545名 (前年度比104.8%)

正規合格者169名

実施会場:本学

大学入試センター試験利用入学試験 (試験日:平成27年1月17日,18日)

[前期A] 志願者 276名

受験者 276名

正規合格者 71名

[前期B] 志願者 190名

受験者 188名

正規合格者 41名

[後期] 志願者 8名

受験者 8名

正規合格者 2名

(5) 平成28年度看護学部入学試験

推薦入試 (試験日:平成27年11月7日)

指定校制 志願者12名,受験者12名,合格者12名

一般公募制 志願者52名,受験者52名,合格者19名

社会人等特別選抜 (試験日:平成27年11月7日)

志願者9名,受験者9名,合格者3名

一般入試 (試験日:平成28年1月24日)

志願者534名 (前年度比97.1%)

受験者530名 (前年度比97.2%)

正規合格者193名

実施会場:本学

大学入試センター試験利用入学試験 (試験日:平成28年1月16日,17日)

[A方式] 志願者 250名

受験者 250名

正規合格者61名

[B方式] 志願者 153名

受験者 152名

正規合格者41名

(6) 平成28年度大学院看護学研究科入学試験

1次募集 (試験日:平成27年9月3日)

受験者10名 合格者8名 入学者7名

2次募集 (試験日:平成27年2月5日)

受験者5名 合格者3名 入学者3名

(7) 平成27年度看護実践センター認定看護師教育課程入学試験

(試験日:平成27年5月30日)

感染管理 志願者28名

受験者27名

合格者27名

救急看護 志願者14名

受験者14名 合格者13名

(8) 平成27年度医学部卒業生 99名

(9) 平成27年度看護学部卒業生 108名

(10) 平成27年度大学院医学研究科修了者 13名

(11) 平成27年度大学院看護学研究科修了者 14名

(12) 平成27年度看護実践研究センター認定看護師教育課程修了者 感染管理22名 救急看護12名

(13) 第110回医師国家試験(試験日:2月7・8・9日)

受験者 114名(新卒:99名, 既卒15名)

合格者 101名(合格率:88.6%) うち新卒92名(合格率92.9%)

既卒 9名(合格率60.0%)

医師国家試験合格者累計 3,857名(卒業生累計3,899名の98.9%)

(14) 第105回看護師国家試験(試験日:2月14日)

受験者 111名(新卒:108名, 既卒3名)

合格者 111名(合格率:100%) うち新卒108名, (合格率 100%)

既卒 3名, (合格率 100%)

(15) 第102回保健師国家試験(試験日:2月16日)

受験者 43名(新卒:42名, 既卒1名)

合格者 42名(合格率:97.7%) うち新卒41名, (合格率97.6%)

既卒 1名, (合格率100%)

(16) 第23回認定看護師認定審査 (試験日:平成27年5月19日)

感染管理 受験者 16名

合格者 15名(合格率:93.8%)

救急看護 受験者 15名

合格者 14名(合格率:93.3%)

- (17) 大学院看護学研究科高度実践看護師(診療看護師) コース(クリティカルケア[周術期])を開設し,第3回目の学生が2名入学した。 (20,890千円)
- 7 病院・クリニック診療実態関係
  - (1)病院

1日平均入院患者数 741.4人(前年比 106.3%)

1日平均外来患者数 2,540.9人(前年比 106.2%)

外来延べ患者数 617,443人(前年比 106.2%)

(2) メディカルクリニック

1日平均外来患者数 144.8人(前年比 108.5%)

外来延べ患者数 35,191人(前年比 107.2%)

# 8 付属施設関係

運動療育センターの利用状況は、次のとおりである。

メディカルチェック 1,003件(前年比109.5%)

健康増進コース(A) 5 0件

運動器系療法コース(A) 337件

内科系運動療法コース (E2) 250件

内科系運動療法コース (E2-1) 180件

シルバー(中・高齢者健康づくり教室) 26件

スイミング教室 (J2) 38件

肥満減量コース 0件

慢性痛教室 11件

リウマチ教室 32件

トレーニングコース (健康測定・指導) 3件

本学職員 6 9件 DM 7件

### 9 会議関係

- (1) 平成27年度理事会関係
  - ① 第1回理事会 平成27年5月25日(月)本学第1会議室 主な議題
    - 評議員選任等
    - ・ 平成26年度事業報告及び決算
    - 平成26年度監査報告
    - 大学南側用地の駐車場整備事業
    - ・ 平成27年度予算の補正
    - 学校法人愛知医科大学病院規程の一部改正
  - ② 第2回理事会 平成27年9月28日(月)本学第1会議室 主な議題
    - 学校法人愛知医科大学就業規則の一部改正
    - ・ 愛知医科大学学則の一部改正
    - 愛知医科大学学部長任用規程の一部改正
    - 愛知医科大学病院規程の一部改正
    - ・ 土地の取得
    - ・ 平成27年度予算の補正
  - ③ 第3回理事会 平成27年12月14日(月)本学第1会議室 主な議題
    - ・ 学校法人愛知医科大学就業規則の一部改正
    - 学校法人愛知医科大学給与規程の一部改正
    - · 愛知医科大学大学院学則の一部改正
  - ④ 第4回理事会 平成28年1月12日(火)本学第1会議室 主な議題
    - ・ 任期満了に伴う評議員候補者の評議員会への推薦
    - ・ 任期満了に伴う理事・評議員選任
  - ⑤ 第5回理事会 平成28年1月28日(木)本学第1会議室 主な議題
    - 理事長選任
    - ・ 法人の代表権を有する者
    - 理事長職務代理指名
    - 医学部長選任

- 看護学部長選任
- ⑥ 第6回理事会 平成28年3月22日(火)本学第1会議室
  - · 法人本部長選任
  - 事務局長人事
  - 名誉教授の称号授与
  - 学校法人愛知医科大学給与規程の一部改正
  - ・ 愛知医科大学学則の一部改正
  - 愛知医科大学学則の一部改正に伴う関連規則の一部改正
  - ・ 愛知医科大学学長任用規程の一部改正
  - · 愛知医科大学副学長規程の一部改正
  - 平成29年度愛知医科大学大学院学生募集
  - 平成29年度愛知医科大学学生募集
  - 引当特定資産の組入れ
  - ・ 平成27年度予算の補正
  - 平成28年度事業計画及び予算
- (2) 平成27年度評議員会関係
  - ① 第1回評議員会 平成27年5月25日(月)本学第1会議室 主な議題
    - 評議員選任等
    - 平成26年度事業報告及び決算
    - 平成26年度監査報告
    - 大学南側用地の駐車場整備事業
    - ・ 平成27年度予算の補正
  - ② 第2回評議員会 平成27年9月28日(月)本学第1会議室 主な議題
    - ・ 土地の取得
    - · 平成27年度予算の補正
  - ③ 第3回評議員会 平成28年1月12日(火)本学第1会議室 主な議題
    - ・ 任期満了に伴う理事・評議員選任
    - 任期満了に伴う監事選任同意
  - ④ 第4回評議員会 平成28年3月22日(火)本学第1会議室 主な議題
    - 理事選任等
    - 監事選任同意等

- 引当特定資産の組入れ
- ・ 平成27年度予算の補正
- ・ 平成28年度事業計画及び予算

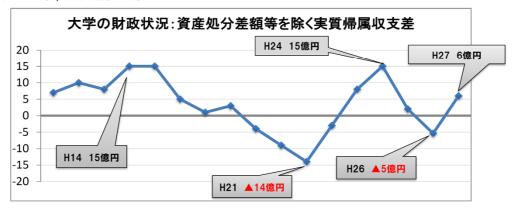
# 4 財務状況等

# 概要の推移

# 本学の状況

平成26年5月9日の新病院開院からちょうど1年半を経過した平成27年11月以降,単月の医療 収入計上額は、過去最高額を更新し続け、最終的に過去最高となる317億円強の決算(予算達成 率99.45%)を計上することができました。 一方,支出の中でウェイトを占める人件費につい ては43.83%(前年比2.55%改善)に抑えることができました。

こうしたことから収支差は大幅に改善し、帰属収支差は約▲32億33百万円となりました。特 殊要素 (寄付金, 減価償却等) を考慮した実質の収支差は、約6億17百万円となり、昨年度の赤 字から一転, 黒字決算となりました。



(H22H23は新病院建設に係る寄付金、補助金を除く) (H24は新病院建設に係る寄付金、補助金、資産売却差額を除く) (H25は新病院建設に保る寄付金、補助金、資産処分差額等を除く) (H26は新病院建設に保る寄付金、補助金、新病院移行関保一時的経費、減価償却費対前年度増分、資産処分差額等を除く) (H27は新病院建設に係る寄付金、AB棟解体工事、減価償却費対平成25年度増分、資産処分差額等を除く)

平成27年度の決算状況は,

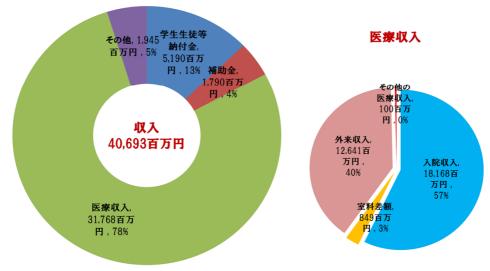
収入合計(事業収入+事業外収入+特別収入) 406億9, 341万余円 支出合計(事業支出+事業外支出+特別支出) 439億2.647万余円

となっており、収支差額は32億3,306万余円の赤字となりますが、この中に含まれる新病院に係る 特殊要素等(寄付金, AB棟解体工事経費, 減価償却費対平成25年度増分など)を除くと実質的には 6億1,721万余円の黒字となります。



# 事業収入十事業外収入+特別収入

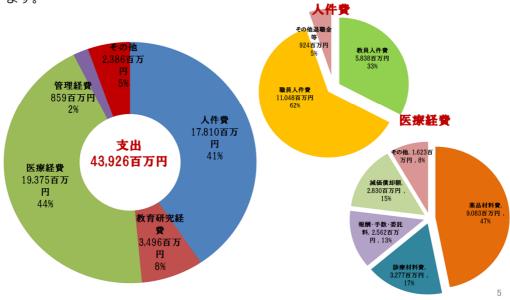
帰属収入額は、その3/4を医療収入に依存しています。今後もこの割合は増加が予想されます。医療収入の内訳としては、入院収入が約6割を占め、入院患者数と平均単価の変動が財政に大きな影響を与えています。



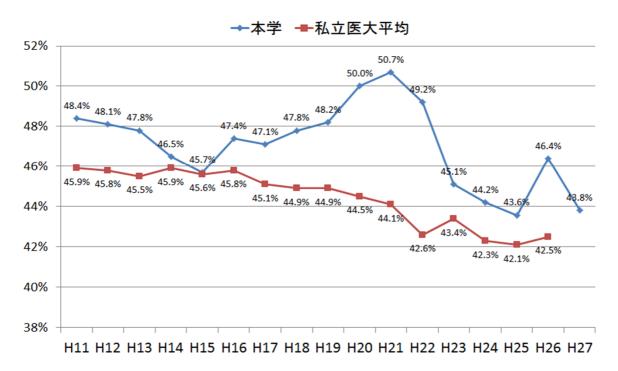
4

# 事業支出十事業外支出+特別支出

支出額は、人件費が約4割を,収入に応じて変動する医療経費が4割強を占めています。



# 本学と私立医大平均の人件費率年次推移



## (2) 財務状況概要

#### 事業活動収支決算の概要

学校法人会計基準の改正により「消費収支計算書」に替わり「事業活動収支計算書」となった。この変更により、毎期の収支バランスを判断できるよう、従来の基本金組入後の収支差額に加えて、基本金組入前の収支差額を表示している。

また、収支バランスについて、経常的な収支バランスと臨時的な収支バランスを区分して把握できるようになった。

平成27年度決算は,事業活動収入40,693百万円(前年度比6.9%増),事業活動支出43,926百万円(前年度比2.6%増)となり,この収支差額は,3,233百万円の支出超過となった。経常的な収支バランスである教育活動収支差額は,1,139百万円の支出超過,臨時的な収支バランスの特別収支差額は,1,834百万円の計上となった。借入金等利息を280百万円,資産処分差額を2,085百万円計上したことが大きな要因であるが、いずれも予算で見込んでいたものである。

主な科目の概要は以下のとおりである。

#### 学生生徒等納付金収入

前年比2,632千円の増収となり、5,190百万円の実績となった。

#### 手数料収入

入学検定料,試験料,証明手数料等による収入であり,医学部入学志願者数が減少したことなどにより前年度比6百万円減少し,207百万の実績となった。

#### 寄付金収入

寄附講座への寄付金,新病院建設に係る寄付金などであり,前年度より82百万円増の508 百万円の実績となった。

## 経常費補助金収入

私立大学等経常費補助金,私立大学等研究設備整備費補助金,ドクターへリ運航事業費補助金,高度救命救急センター運営費補助金等を受けており,前年度より294百万円減少し,1,689百万円の実績となった。

#### 付随事業収入

受託研究,臨床治験,病院実習などの収入が含まれており,前年度より14百万増の382百万円の実績となった。

#### 医療収入

大学病院とメディカルクリニックの医療収入が含まれており、診療単価の増加などにより、前年度より3、376百万円増加し、31、768百万円の実績となった。

## 人件費

給与改定により、定期昇給1.38%、ベースアップ0.48%実施など前年度より149百万円増加し、17、810百万円となった。

#### 教育研究経費

教育研究経費は、教育研究活動に必要な経費を計上しており、前年度より89百万円増加し、3,496百万円の実績となった。

#### 医療経費

診療に係る経費として、薬品材料費、診療材料費、給食材料費、委託料、修繕費、減価償却額等を計上しており、前年度より882百万円減少し、19、375百万円の実績となった。

#### 管理経費

法人,大学,大学病院,メディカルクリニックの管理運営に必要な経費を計上しており,前年度より52百万円増加し859百万円の実績となった。

## 借入金等利息

新病院,医心館,立体駐車場の建設資金の借入金の利息により,280百万円の実績となった。 資産処分差額

図書,建物等の資産除却時の帳簿価格との差額であり、この内、図書除却に伴う金額は321 百万円、新病院建設に伴う旧病院解体で1、601百万円で総額2、085百万円の実績となった。

## (3) 学校法人会計財務三表

学校法人には、①資金収支計算書②事業活動収支計算書③貸借対照表の財務三表と言われる計算書類がある。

## ① 資金収支計算書

当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入・支出の内容と支払資金の収入・支出など1年間の諸活動に伴う、資金の動きを明らかにしたものである。これにより学校法人のキャッシュフローの状況を把握することができる。

## ② 事業活動収支計算書

当該会計年度の3つの活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとと もに、当該会計年度において基本金に組み入れる額を控除した当該会計年度の諸活動に対応するす べての事業活動収入及び支出の均衡の状態を明らかにする。

## ③ 貸借対照表

開校以来の財産の一覧表。私立学校法第25条で、私立学校は必要な施設及び設備をきちんと用意 しなければならないことになっている。どういう設備を借入金で用意しているのか、自己資金で確 保できたのか、つまり、資産があるかどうかということを見るのが貸借対照表である。

種類	解説	わかりやすく言うと
資金収支計算書	資金の動き・残高	資金規模
事業活動収支計算書	区分経理・収支の均衡	利益がでているか
貸借対照表	財政状態	資産があるか

## (4) 事業活動収支の状況

#### ◆ 事業活動収支計算書

① 教育活動収支の部

収入は404億円で,予算比46百万円の増収となった。医療収入 1 億円の減少を補助金,付随事業等で補っている。

支出は416億円で,予算比12億円の減少となった。主な内訳としては,教育研究経費が4億円,医療経費が5億円,管理経費が1億円の減少である。

② 教育活動外収支の部

収入は21百万円,支出は3億円となった。おおむね予算どおりである。

③ 特別支出の部

収入は2.5億円で予算比1.6億円の減少となった。支出は21億円で概ね予算どおりである。

	科 目	予算	決 算		
	学生生徒等納付金	5, 205, 155, 000	5, 189, 742, 500	15, 412,	500
	手数料	206, 595, 000	206, 967, 110	△372,	11
事	寄付金	534, 600, 000	507, 774, 447	26, 825,	550
業活動収	経常費等補助金	1, 624, 088, 000	1, 689, 104, 064	△65, 016,	06
	(国庫補助金)	(1, 257, 488, 000)	(1, 380, 765, 000)	(△123, 277, 0	
収入の部	(地方公共団体補助金)	(366, 600, 000)	(308, 339, 064)	(58, 260, 9	36)
	付随事業収入	329, 082, 000	381, 817, 471	△52, 735,	
	医療収入	31, 884, 910, 000	31, 768, 032, 652	116, 877,	
育 舌	雑収入	588, 751, 000	675, 401, 175	△86, 650,	
動	教育活動収入計	40, 373, 181, 000	40, 418, 839, 419	△45, 658,	
区 支	科目	予算	決 算	差異	
事	人件費	17, 916, 519, 000	17, 809, 712, 091	106, 806, 9	90
業	教育研究経費	23, 804, 276, 000	22, 871, 959, 820	932, 316, 1	
活動	(教育研究経費)	(3, 894, 949, 000)	(3, 496, 462, 848)	(398, 486, 1	
支	(医療経費)	(19, 909, 327, 000)	(19, 375, 496, 972)	(533, 830, 0	
出	管理経費	986, 154, 000	858, 576, 515	127, 577,	
の部	徴収不能額等	14, 600, 000	17, 917, 913	△3, 317,	
	教育活動支出計	42, 721, 549, 000	41, 558, 166, 339	1, 163, 382, 6	
	教育活動収支差額	△2, 348, 368, 000	△1, 139, 326, 920	△1, 209, 041,	
	科目	予 算	決 算	差異	O.C.
収事入業の活	受取利息・配当金	19, 266, 000	20, 613, 351	<u>∠</u> ∠1, 347, 3	3 5
部動	教育活動外収入計	19, 266, 000	20, 613, 351	△1, 347, 3	
舌	教育佔勤外收入計 科 目	19, 200, 000	次 算	差 異	Jί
大   支事	借入金等利息				0.0
又が一部動		280, 254, 000	280, 252, 973	1, (	
×	教育活動外支出計	280, 254, 000	280, 252, 973	1, 0	
	教育活動外収支差額	△260, 988, 000	△259, 639, 622	△1, 348,	
	経常収支差額	△2,609,356,000	△1, 398, 966, 542	△1, 210, 389,	45
収事入業	科目	予 算	決 算	差 異	0.5
の活 部動	その他の特別収入	415, 704, 000	253, 962, 143	161, 741, 8	
寺 ——	特別収入計	415, 704, 000	253, 962, 143	161, 741, 8	85
门 又 支事	科目	予算	決 算	差 異	
と出来の活	資産処分差額	2, 067, 826, 000	2, 085, 112, 860	△17, 286,	
部動	その他の特別支出	4, 944, 000	2, 943, 257	2, 000, 7	
	特別支出計	2, 072, 770, 000	2, 088, 056, 117	△15, 286,	
	特別収支差額	△1, 657, 066, 000	△1, 834, 093, 974	177, 027, 9	97
〔予備	費〕	(116, 472, 000)			
		83, 528, 000		83, 528, 0	00
	組入前当年度収支差額	△4, 349, 950, 000	△3, 233, 060, 516	△1, 116, 889,	
	組入額合計	△1,700,000,000	△2, 295, 496, 841	595, 496, 8	84
	収支差額	△6, 049, 950, 000	$\triangle 5, 528, 557, 357$	△521, 392,	64
	繰越収支差額	△37, 265, 830, 000	△34, 505, 483, 480	△2, 760, 346,	52
1 0 4	繰越収支差額	△43, 315, 780, 000	△40, 034, 040, 837	$\triangle 3, 281, 739,$	16
(参	考)	,			
事業活	動収入計	40, 808, 151, 000	40, 693, 414, 913	114, 736, 0	08
事業活	動支出計	45, 158, 101, 000	43, 926, 475, 429	1, 231, 625,	57

医療収力が予算を1億円下回った

教経算億回 新経算億回 で で で で で で で で で た に た

医がを下 を予5回 を登録的 た

## (5) 資金収支の状況

## ◆ 資金収支計算書

#### ① 収入の部

予算と比較して、調整勘定を除く小計で1億円強の増収となった。主な要因は、資産売却収入の3億円増である。その他、寄付金収入が1億円減、医療収入が1億円減、雑収入が1億円増である。

## ② 支出の部

予算と比較して,調整勘定を除く小計で24億円減少した。主な内訳としては,人件費支出が2億円減,教育研究経費支出が4億円減,医療経費支出が7億円減,管理経費支出が1億円減,施設関係支出が7億円減,設備関係支出が2億円減である。

	ty H	→ k/k	\h. \h\r	(単位 円)
	科目	予 算	決 算	差異
	学生生徒等納付金収入	5, 205, 155, 000	5, 189, 742, 500	15, 412, 500
	手数料収入	206, 595, 000	206, 967, 110	△372, 110
	寄付金収入	734, 600, 000	592, 683, 460	141, 916, 540
	補助金収入	1, 819, 792, 000	1, 789, 944, 064	29, 847, 936
	(国庫補助金収入)	(1, 450, 516, 000)	(1, 478, 929, 000)	$(\triangle 28, 413, 000)$
収	(地方公共団体補助金収入)	(369, 276, 000)	(311, 015, 064)	(58, 260, 936)
	資産運用収入	0	0	0
入	資産売却収入	0	277, 804, 800	$\triangle 277, 804, 800$
,	付随事業・収益事業収入	329, 082, 000	381, 817, 471	$\triangle$ 52, 735, 471
の	医療収入	31, 884, 910, 000	31, 768, 032, 652	116, 877, 348
	受取利息・配当金収入	19, 266, 000	20, 613, 351	$\triangle 1, 347, 351$
417	雑収入	588, 751, 000	690, 260, 642	$\triangle$ 101, 509, 642
部	借入金等収入	150, 000, 000	140, 000, 000	10, 000, 000
	小 計	40, 938, 151, 000	41, 057, 866, 050	$\triangle$ 119, 715, 050
	前受金収入	1, 106, 473, 000	1, 100, 555, 764	5, 917, 236
	その他の収入	6, 664, 801, 000	6, 726, 297, 247	$\triangle 61, 496, 247$
	資金収入調整勘定	$\triangle 6,581,779,000$	$\triangle 7,529,491,406$	947, 712, 406
	前年度繰越支払資金	4, 070, 718, 000	4, 070, 717, 887	
収	入の部合計	46, 198, 364, 000	45, 425, 945, 542	772, 418, 458
	人件費支出	17, 956, 309, 000	17, 776, 127, 433	180, 181, 567
	教育研究経費支出	2, 520, 034, 000	2, 121, 116, 796	398, 917, 204
	医療経費支出	17, 002, 275, 000	16, 288, 407, 586	713, 867, 414
	管理経費支出	797, 341, 000	680, 032, 027	117, 308, 973
	借入金等利息支出	280, 254, 000	280, 252, 973	1, 027
支	借入金等返済支出	1, 277, 346, 000	1, 244, 346, 000	33, 000, 000
出	施設関係支出	1, 627, 267, 000	932, 026, 810	695, 240, 190
	設備関係支出	1, 109, 348, 000	926, 739, 944	182, 608, 056
0	予備費	49, 228, 000		49, 228, 000
部	小 計	42, 619, 402, 000	40, 249, 049, 569	2, 370, 352, 431
	資産運用支出	255, 000, 000	245, 000, 000	10, 000, 000
	その他の支出	4, 143, 344, 000	4, 315, 973, 376	$\triangle 172, 629, 376$
	資金支出調整勘定	△3, 600, 783, 000	△3, 273, 036, 638	△327, 746, 362
	翌年度繰越支払資金	2, 781, 401, 000	3, 888, 959, 235	$\triangle 1, 107, 558, 235$
支	出の部合計	46, 198, 364, 000	45, 425, 945, 542	772, 418, 458

医療収入が予 算額を1億円 下回った。

医療経費支 出が,予算 額を7億円 下回った

起設所 支出額 予 算 で で で で で で た

# (6) 貸借対照表の状況

## ◆ 貸借対照表

資産総額は前年比49億円(6.8%)減少の722億円となった。また、純資産額は前年比32億円(9.7%)減少の333億円となった。

資産の部			(単位 円)	
科 目	本年度末	<b>治</b> 左 莊士		
固定資産	61, 374, 412, 184	前年度末 66,715,026,895		病院等の取り壊しによ
有形固定資産	49, 719, 876, 731	54, 631, 446, 402	$\triangle 4,911,569,671$	る建物の減少
土地	8, 382, 712, 508	7, 996, 142, 387	386, 570, 121	7/
建物	32, 680, 475, 182	35, 933, 547, 958	$\triangle 3, 253, 072, 776$	
構築物	1, 027, 628, 167	1, 134, 905, 938	$\triangle 3, 233, 072, 770$ $\triangle 107, 277, 771$	新病院に整備した機器
教育研究用機器備品	6, 323, 320, 428	7, 770, 399, 452	$\triangle 1,447,079,024$	の減価償却額の増加
管理用機器備品	192, 171, 499	198, 695, 635	$\triangle 6,524,136$	
図書	918, 543, 958	1, 225, 445, 264	$\triangle 306, 901, 306$	
車両	7, 278, 875	11, 611, 606	△4, 332, 731	除籍及び廃 棄
建設仮勘定	187, 746, 114	360, 698, 162	$\triangle$ 4, 352, 751 $\triangle$ 172, 952, 048	
是以以例之	101, 140, 114	300, 030, 102	△172, 302, 040	
特定資産	10, 708, 000, 000	11, 213, 000, 000	△505, 000, 000	
学校債償還引当特定資産	1, 853, 000, 000	2, 113, 000, 000	$\triangle 260,000,000$	
借入金返済引当特定資産	6, 600, 000, 000	6, 600, 000, 000	0	
医療機器等整備調整資金引当特定資産	1, 850, 000, 000	2, 100, 000, 000	$\triangle 250,000,000$	
教育研究奨励引当特定資産	300, 000, 000	400, 000, 000	△100, 000, 000	特定寄附金
国際交流推進引当特定資産	60, 000, 000	0	60, 000, 000	特定での地名である。 特定での地名 をいまる をいまる をいまる といまる といまる といまる といまる といまる といまる といまる と
教育研究活性化引当特定資産	45, 000, 000	0	45, 000, 000	て だ と L L L L L L L L L L L L L L L L L L
その他の固定資産	946, 535, 453	870, 580, 493	75, 954, 960	
借地権	20, 000, 000	20, 000, 000	0	
電話加入権	5, 103, 000	5, 103, 000	0	
施設利用権	203, 783, 572	5	203, 783, 567	
ソフトウェア	493, 742, 661	629, 065, 268	$\triangle 135, 322, 607$	
有価証券	11, 400, 000	11, 400, 000	0	
長期貸付金	212, 100, 000	204, 300, 000	7, 800, 000	
保証金	255, 500	561, 500	△306, 000	
預託金	150, 720	150, 720	0	
流動資産	10, 792, 610, 254	10, 324, 816, 885	467, 793, 369	
現金預金	3, 888, 959, 235	4, 070, 717, 887	$\triangle$ 181, 758, 652	平成28年2 月・3月の
未収入金	6, 439, 468, 967	5, 628, 421, 358	811, 047, 609	
貯蔵品	211, 464, 483	363, 861, 198	$\triangle 152, 396, 715$	
短期貸付金	102, 600, 000	98, 400, 000	4, 200, 000	
立替金	3, 582, 310	4, 329, 197	△746, 887	
前払金	146, 535, 259	159, 087, 245	$\triangle 12,551,986$	
資産の部合計	72, 167, 022, 438	77, 039, 843, 780	$\triangle 4,872,821,342$	

(単位 円)

			(単位 円)
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	28, 885, 883, 551	34, 446, 623, 338	△5, 560, 739, 787
長期借入金	19, 066, 239, 000	24, 098, 085, 000	△5, 031, 846, 000
学校債	1, 600, 000, 000	1, 723, 000, 000	$\triangle 123,000,000$
長期未払金	1, 916, 421, 315	2, 355, 899, 760	$\triangle 439, 478, 445$
退職給与引当金	6, 303, 223, 236	6, 269, 638, 578	33, 584, 658
流動負債	10, 006, 223, 612	6, 085, 244, 651	3, 920, 978, 961
短期借入金	5, 031, 846, 000	844, 346, 000	4, 187, 500, 000
1年以内償還予定学校債	253, 000, 000	390, 000, 000	$\triangle 137,000,000$
未払金	3, 293, 158, 538	3, 516, 501, 695	$\triangle 223, 343, 157$
前受金	1, 123, 355, 764	1, 045, 909, 725	77, 446, 039
預り金	304, 863, 310	288, 487, 231	16, 376, 079
負債の部合計	38, 892, 107, 163	40, 531, 867, 989	$\triangle 1,639,760,826$
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	73, 308, 956, 112	71, 013, 459, 271	2, 295, 496, 841
第1号基本金	70, 223, 956, 112	68, 263, 459, 271	1, 960, 496, 841
第4号基本金	3, 085, 000, 000	2, 750, 000, 000	335, 000, 000
繰越収支差額	△40, 034, 040, 837	△34, 505, 483, 480	$\triangle 5, 528, 557, 357$
翌年度繰越収支差額	△40, 034, 040, 837	△34, 505, 483, 480	$\triangle 5, 528, 557, 357$
純資産の部合計	33, 274, 915, 275	36, 507, 975, 791	$\triangle 3, 233, 060, 516$
負債及び純資産の部合計	72, 167, 022, 438	77, 039, 843, 780	△4, 872, 821, 342

# (7) 財務状況の年次推移

## ◆ 資金収支計算書

(単位 千円)

	科目	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
	学生生徒等納付金収入	4, 945, 140	4, 993, 070	5, 072, 180	5, 187, 111	5, 189, 743
	手数料収入	182, 238	192, 595	218, 870	212, 567	206, 967
	寄付金収入	504, 909	637, 500	821, 306	926, 849	592, 683
	補助金収入	2, 596, 111	1, 971, 909	3, 225, 195	2, 066, 080	1, 789, 944
収	資産売却収入	1, 650, 304	6, 219, 244	4, 680, 228	1, 111, 929	277, 805
	付随事業・収益事業収入	201, 144	224, 643	270, 864	368, 088	381, 817
入	医療収入	26, 211, 188	27, 550, 836	27, 462, 839	28, 392, 224	31, 768, 033
	受取利息・配当金収入	149, 238	322, 657	151, 399	88, 837	20, 613
0	雑収入	487, 398	667, 902	551, 156	795, 792	690, 261
	借入金等収入	6, 175, 000	1, 054, 000	16, 448, 000	843, 000	140, 000
部	小 計	43, 102, 670	43, 834, 357	58, 902, 036	39, 992, 477	41, 057, 866
	前受金収入	1, 026, 546	1, 045, 187	1, 042, 555	1, 006, 010	1, 100, 556
	その他の収入	5, 191, 064	6, 580, 987	6, 001, 032	14, 026, 429	6, 726, 297
	資金収入調整勘定	△7, 006, 115	$\triangle 6, 484, 845$	△7, 674, 131	$\triangle 6,770,625$	△7, 529, 491
	前年度繰越支払資金	7, 338, 948	12, 104, 791	13, 128, 571	8, 429, 803	4, 070, 718
	収入の部合計	49, 653, 113	57, 080, 478	71, 400, 062	56, 684, 093	45, 425, 946
	人件費支出	15, 871, 459	16, 374, 550	16, 479, 818	17, 446, 729	17, 776, 127
	教育研究経費支出	1, 593, 437	1, 665, 817	1, 716, 358	2, 071, 975	2, 121, 117
	医療経費支出	13, 203, 174	13, 729, 389	14, 659, 006	17, 056, 700	16, 288, 408
	管理経費支出	478, 125	544, 056	493, 082	642, 089	680, 032
支	借入金等利息支出	110, 933	128, 462	231, 534	296, 638	280, 253
	借入金等返済支出	445, 170	507, 990	896, 063	4, 168, 346	1, 244, 346
出	施設関係支出	2, 573, 557	2, 015, 033	17, 226, 704	7, 044, 678	932, 027
0	設備関係支出	1, 424, 119	1, 316, 223	4, 614, 994	2, 905, 244	926, 740
部	小 計	35, 699, 974	36, 281, 520	56, 317, 559	51, 632, 398	40, 249, 050
, ,	資産運用支出	2, 359, 000	7, 422, 000	6, 618, 000	2, 880, 000	245, 000
	その他の支出	2, 583, 811	3, 548, 706	3, 386, 461	3, 814, 413	4, 315, 973
	資金支出調整勘定	△3, 094, 463	△3, 300, 319	$\triangle 3, 351, 760$	$\triangle 5,713,435$	$\triangle 3, 273, 037$
	次年度繰越支払資金	12, 104, 791	13, 128, 571	8, 429, 803	4, 070, 718	3, 888, 959
	支出の部合計	49, 653, 113	57, 080, 478	71, 400, 062	56, 684, 093	45, 425, 946

<sup>※</sup> 科目毎に千円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

## ◆ 事業活動収支計算書

(単位 千円)

		70 日	TIOCHT	TTO A be ste	TIOFFE	110044	(単位 十円)
		科目	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
		学生生徒等納付金	4, 945, 140				
	事業	手数料	182, 238				206, 967
	活	寄付金	397, 134				507, 774
	動	経常費等補助金	1, 772, 425	1, 735, 700	1, 601, 092	1, 983, 106	1, 689, 104
	収入	付随事業収入	201, 144	224, 643	270, 864	368, 088	381, 817
+//.	$\mathcal{O}$	医療収入	26, 211, 188	27, 550, 836	27, 462, 839	28, 392, 224	31, 768, 033
教 育	部	雑収入	487, 398	667, 902	551, 156	791, 846	675, 401
活		教育活動収入計	34, 196, 667	35, 914, 935	35, 669, 359	37, 360, 312	40, 418, 839
動収	事	人件費	15, 927, 015	16, 464, 139	16, 614, 462	17, 660, 444	17, 809, 712
支	業	教育研究経費	17, 005, 890	17, 661, 636	18, 789, 161	23, 664, 489	22, 871, 960
	活	(うち教育研究経費)	2, 389, 266	2, 489, 894	2, 666, 911	3, 407, 734	3, 496, 463
	動支	(うち医療経費)	14, 616, 624	15, 171, 742	16, 122, 251	20, 256, 755	19, 375, 497
	出	管理経費	553, 355	606, 240	613, 945	806, 032	858, 577
	の部	徴収不能額等	16, 765	80, 102	15, 278	5, 000	17, 918
	口口	教育活動支出計	33, 503, 025	34, 812, 117	36, 032, 845	42, 135, 966	41, 558, 166
		教育活動収支差額	693, 642	1, 102, 819	△363, 486	$\triangle 4,775,654$	△1, 139, 327
教育	収事入業	受取利息・配当金	149, 238	322, 657	151, 399	88, 837	20, 613
育活	の活 部動	教育活動外収入計	149, 238	322, 657	151, 399	88, 837	20, 613
動	支事出業	借入金等利息	110, 933	128, 462	231, 534	296, 638	280, 253
外収	の活部動	教育活動外支出計	110, 933	128, 462	231, 534	296, 638	280, 253
支		教育活動外収支差額	38, 305	194, 195	△80, 134	△207, 802	△259, 640
		経常収支差額	731, 947	1, 297, 013	△443, 620	△4, 983, 456	△1, 398, 967
		資産売却差額	6, 964	608, 265	311, 105	608	0
	入業の活	その他の特別収入	951, 874	376, 742	1, 998, 809	627, 938	253, 962
特	部動	特別収入計	958, 838	985, 007	2, 309, 914	628, 546	253, 962
別収		資産処分差額	1, 094, 895	1, 005, 126	1, 020, 782	386, 411	2, 085, 113
支	出業の活	その他の特別支出	0	0	0	407	2, 943
	部動	特別支出計	1, 094, 895	1, 005, 126	1, 020, 782	386, 818	2, 088, 056
		特別収支差額	△136, 058	△20, 118	1, 289, 132	241, 728	△1, 834, 094
基	本金約	且入前当年度収支差額	595, 890	1, 276, 895	845, 512	△4, 741, 728	△3, 233, 061
基	本金統	且入額合計	△27, 000	△251, 440	△3, 009, 358	△114, 000	△2, 295, 497
当	年度山	又支差額	568, 890	1, 025, 455	△2, 163, 846	△4, 855, 728	$\triangle 5, 528, 557$
前	年度約	操越収支差額	△29, 080, 254	△28, 511, 364	△27, 485, 909	△29, 649, 755	△34, 505, 483
翌	年度約	操越収支差額	$\triangle$ 28, 511, 364	△27, 485, 909	△29, 649, 755	△34, 505, 483	△40, 034, 041
	(参						_
事	業活動	助収入計	35, 304, 743	37, 222, 599	38, 130, 672	38, 077, 694	40, 693, 415
-		助支出計	34, 708, 853	35, 945, 704	37, 285, 161	42, 819, 423	43, 926, 475
<u> </u>							• •

<sup>※</sup> 科目毎に千円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

◆ **貸借対照表** (単位 千円)

<b>(単位 千円</b> 資産の部										
科目	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度					
固定資産	44, 489, 908	46, 706, 449	67, 068, 572	66, 715, 027	61, 374, 412					
有形固定資産	31, 496, 402	31, 954, 501	49, 947, 526	54, 631, 446	49, 719, 877					
土 地	7, 437, 939	7, 437, 939	7, 474, 316	7, 996, 142	8, 382, 713					
建物	14, 401, 779	13, 360, 522	12, 373, 086	35, 933, 548	32, 680, 475					
構築物	1, 293, 040	1, 167, 434	1, 013, 704	1, 134, 906	1, 027, 628					
教育研究用機器備品	2, 873, 869	3, 171, 230	6, 229, 521	7, 770, 399	6, 323, 320					
管理用機器備品	94, 156	94, 398	118, 733	198, 696	192, 171					
図書	2, 814, 286	2, 417, 307	1, 422, 774	1, 225, 445	918, 544					
車輌	25, 315	16, 734	18, 167	11, 612	7, 279					
建設仮勘定	2, 556, 017	4, 288, 936	21, 297, 226	360, 698	187, 746					
特定資産	5, 118, 000	10, 900, 000	16, 567, 000	11, 213, 000	10, 708, 000					
学校債償還引当特定資産	2, 618, 000	2, 400, 000	2, 267, 000	2, 113, 000	1, 853, 000					
新病院建設引当特定資産	1, 500, 000	1, 500, 000	1, 500, 000	0	0					
借入金返済引当特定資産	1,000,000	6, 000, 000	10, 800, 000	6,600,000	6,600,000					
医療機器等整備調整資金引当特定資産	0	1, 000, 000	2, 000, 000	2, 100, 000	1,850,000					
教育研究奨励引当特定資産	0	0	0	400, 000	300,000					
国際交流推進引当特定資産	0	0	0	0	60,000					
教育研究活性化引当特定資産	0	0	0	0	45, 000					
その他の固定資産	7, 875, 506	3, 851, 948	554, 047	870, 580	946, 535					
ソフトウェア	49, 710	45, 602	361, 203	629, 065	20,000					
借地権	64, 000	20, 000	20, 000	20, 000	5, 103					
電話加入権	5, 103	5, 103	5, 103	5, 103	203, 784					
施設利用権	0	0	0	0	493, 743					
有価証券	7, 715, 500	3, 700, 300	11, 400	11, 400	11, 400					
保証金	270	720	1, 090	562	212, 100					
預託金	124	123	151	151	256					
長期貸付金	40, 800	80, 100	155, 100	204, 300	151					
流動資産	19, 150, 930	19, 027, 048	15, 605, 518	10, 324, 817	10, 792, 610					
現金預金	12, 104, 791	13, 128, 571	8, 429, 803	4, 070, 718	3, 888, 959					
未収入金	5, 938, 965	5, 380, 144	6, 557, 863	5, 628, 421	6, 439, 469					
貯蔵品	195, 376	245, 615	331, 382	363, 861	211, 464					
短期貸付金	43, 800	79, 200	95, 100	98, 400	102, 600					
有価証券	723, 272	0	0	0	0					
立替金	1, 702	5, 090	4, 696	4, 329	3, 582					
前払金	143, 025	188, 428	186, 675	159, 087	146, 535					
資産の部合計	63, 640, 838	65, 733, 497	82, 674, 091	77, 039, 844	72, 167, 022					

(単位 千円)

負債の部					(単位 1円)
科目	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
固定負債	19, 719, 714	20, 309, 418	32, 622, 207	34, 446, 623	28, 885, 884
長期借入金	11, 514, 840	11, 815, 777	24, 269, 431	24, 098, 085	19, 066, 239
学校債	2, 270, 000	2, 117, 000	1, 943, 000	1, 723, 000	1,600,000
長期未払金	904	408, 534	338, 703	2, 355, 900	1, 916, 421
退職給与引当金	5, 874, 290	5, 921, 279	6, 055, 923	6, 269, 639	6, 303, 223
長期前受金	59, 680	46, 828	15, 150	0	0
流動負債	4, 793, 827	5, 019, 886	8, 802, 179	6, 085, 245	10, 006, 224
短期借入金	149, 990	613, 063	3, 844, 346	844, 346	5, 031, 846
1年以内償還予定学校債	348, 000	283, 000	324, 000	390, 000	253, 000
未払金	2, 992, 365	2, 770, 057	3, 246, 424	3, 516, 502	3, 293, 159
前受金	1, 044, 277	1, 075, 139	1, 106, 473	1, 045, 910	1, 123, 356
預り金	259, 195	278, 627	280, 936	288, 487	304, 863
負債の部合計	24, 513, 541	25, 329, 305	41, 424, 386	40, 531, 868	38, 892, 107
純資産の部					
科目	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
基本金	67, 638, 662	67, 890, 101	70, 899, 459	71, 013, 459	73, 308, 956
第1号基本金	63, 651, 662	63, 827, 101	66, 763, 459	68, 263, 459	70, 223, 956
第2号基本金	1, 500, 000	1, 500, 000	1, 500, 000	0	0
第3号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	2, 487, 000	2, 563, 000	2, 636, 000	2, 750, 000	3, 085, 000
繰越収支差額	$\triangle$ 28, 511, 364	$\triangle 27, 485, 909$	$\triangle$ 29, 649, 755	$\triangle 34, 505, 483$	△40, 034, 041
翌年度繰越消費差額	$\triangle 28, 511, 364$	$\triangle 27, 485, 909$	$\triangle 29,649,755$	$\triangle 34, 505, 483$	△40, 034, 041
純資産の部合計	39, 127, 297	40, 404, 192	41, 249, 704	36, 507, 976	33, 274, 915
負債及び純資産の部合計	63, 640, 838	65, 733, 497	82, 674, 090	77, 039, 844	72, 167, 022

<sup>※</sup> 科目毎に千円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

# (8) 財務比率の状況(主要比率)

## ◆ 事業活動収支計算書

比率	算 式	評	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
人件費比率	人 件 費   帰 属 収 入	•	46. 4	45. 4	46. 4	47. 2	44. 0
人件費依存率	人   件   費     学生生徒等納付金	•	322. 1	329. 7	327. 6	340. 5	343. 2
教育研究経費比率	教育研究経費     経常収入	$\triangle$	49. 5	48. 7	52. 5	63. 2	56. 6
医療経費比率	医療   経費     経常収入	$\triangle$	42. 6	41. 9	45. 0	54. 1	47. 9
管理経費比率	管 理 経 費   経 常 収 入	•	1.6	1. 7	1. 7	2. 2	2. 1
借入金等利息比率	借入金等利息     経常収入	•	0.3	0.4	0.6	0.8	0.7
事業活動収支差額 比率	事業活動収入	•	1. 7	3. 4	2. 2	-12.5	-7. 9
基本金組入後収支 比率	事業活動支出	•	98. 2	95. 9	90. 6	112. 1	102. 2
学生等納付金比率	学生生徒等納付金     経 常 収 入	~	14. 4	13. 8	14. 2	13. 9	12.8
寄付金比率	寄   付   金     事業活動収入	$\triangle$	1.5	1. 9	2. 3	2.5	1.6
経常費寄付金比率	教育活動収支の寄付金 経 常 収 入	$\triangle$	1.2	1.5	1.4	1. 1	1.3
補助金比率	補 助 金   事業活動収入	$\triangle$	7. 4	5. 3	8. 5	5. 4	4. 4
経常費補助金比率	教育活動収支の補助金 経 常 収 入	$\triangle$	5. 0	4. 7	4. 2	5. 2	4. 2
基本金組入比率	基本金組入額事業活動収入	$\triangle$	-0. 1	-0.7	-7. 9	-0.3	-5. 6
減価償却額比率	減   価   償   却   額     経   常   支   出	~	6. 7	6.8	7. 0	10.5	10. 2
経常収支差額比率	経常収支差額   経常収入	$\triangle$	2. 1	3. 6	-1.2	-13. 3	-3.5
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 教育活動収入計	$\triangle$	2. 0	3. 1	-1.0	-12.8	-2.8

評価:△高い値が良い ▼低い値が良い ~どちらともいえない

参考:新学校法人会計基準の財務比率に関するガイドライン(日本私立大学連盟)

## ◆ 貸借対照表

比 率	算 式	評	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
固定資産構成比率	固 定 資 産     総 資 産	•	69. 9	71. 1	81. 1	86. 6	85. 0
有形固定資産構成比率	有形固定資産総 資産	•	49. 5	48.6	60. 4	70. 9	68. 9
特定資産構成比率	特   定   資   產     総   資   産	$\triangle$	8. 0	16. 6	20.0	14. 6	14.8
流動資産構成比率	流 動 資 産   総 資 産	$\triangle$	30. 1	28. 9	18. 9	13. 4	15. 0
固定負債構成比率	固   定   負   債     負債   十純資産	•	31.0	30. 9	39. 5	44. 7	40. 0
流動負債構成比率	流 動 負 債   負債+純資産	•	7. 5	7. 6	10.6	7. 9	13. 9
内部留保資産比率	<ul><li>運用資産-総負債</li><li>総 資 産</li></ul>	$\triangle$	0.7	3. 7	-19. 9	-32.8	-33. 6
運用資産余剰比率	運用資産-外部負債事業活動支出	$\triangle$	21.3	26. 3	-24.8	-41. 9	-38. 4
純資産構成比率	純   資   産     負債+純資産	$\triangle$	61. 5	61. 5	49. 9	47. 4	46. 1
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額負債 + 純資産	$\triangle$	-44. 8	-41.8	-35. 9	-44. 8	-55. 5
固定比率	固   定   資   産     純   資   産	•	113. 7	115. 6	162. 6	182. 7	184. 4
固定長期適合率	固       定       資       産         純資産+固定負債	•	75. 6	76. 9	90.8	94. 0	98. 7
流動比率	流 動 資 産   流 動 負 債	$\triangle$	399. 5	379. 0	177. 3	169. 7	107. 9
総負債比率	総 負 債   総 資 産	•	38. 5	38. 5	50. 1	52. 6	53. 9
負債比率	総 負 債   純 資 産	•	62. 7	62. 7	100. 4	111. 0	116. 9
前受金保有比率	現   金   預   金     前   受   金	Δ	1096. 5	1170. 1	751. 6	389. 2	346. 2
基本金比率	基   本   金     基本金要組入額	$\triangle$	88. 1	87. 4	72. 5	81. 2	83. 5
減価償却比率	減価償却累計額 減価償却資産取得価額	~	68. 7	70. 3	68.8	49. 3	47. 5
積立率	運用資産   要積立額	Δ	51. 4	55. 9	48. 1	30.8	34. 4

## (9) 借入金の内訳

(単位:千円)

科 目	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
長期借入金	6, 115, 000	914, 000	16, 298, 000	673,000	0
学校債	60,000	140,000	150, 000	170,000	140,000
合 計	6, 175, 000	1, 054, 000	16, 448, 000	843,000	140,000

<sup>※</sup> 科目毎に千円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

## (10) 寄付金の受入状況

(単位:千円)

科 目	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
特別寄付金	165, 390	252, 232	493, 949	659, 394	312, 714
一般寄付金	339, 519	385, 268	327, 356	267, 455	279, 969
現物寄付金	20, 413	53, 221	45, 760	39, 538	53, 354
合 計	525, 322	690, 721	867, 065	966, 387	646, 037

<sup>※</sup> 科目毎に千円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

## (11) 補助金の受入状況

(単位:千円)

科 目	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
国庫補助金	1, 443, 500	1, 485, 625	2, 876, 175	1, 763, 122	1, 478, 929
地方公共団体補助金	1, 152, 611	486, 284	348, 520	302, 958	311, 015
学術研究振興資金	0	0	500	0	0
合 計	2, 596, 111	1, 971, 909	3, 225, 195	2, 066, 080	1, 789, 944

<sup>※</sup> 科目毎に千円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

# (12) 学納金の状況

◆ 大学院

(単位:円)

研究科名	年 度	納入金	入学金	授業料	実 験 実習費	教育充実費	計
	H16年度~	初年度	200, 000	300,000	200,000	_	700, 000
医学研究科	H19年度	2年度以降		300,000	200,000	_	500, 000
区于初九行 	H20年度~	初年度	200, 000	300,000	_	_	500, 000
	1120年度	2年度以降	l	300,000			300, 000
看護学研究科	H19年度~ H26年度	初年度	300,000	600,000	1	_	900, 000
有废于切几件		2年度以降	_	600,000	_	_	600,000
看護学研究科	H27年度~	初年度	300, 000	600,000	_	100,000	1,000,000
(修士論文コース)		2年度以降	l	600,000		100,000	700, 000
看護学研究科 (高度実践看護師コース	H27年度~	初年度	300, 000	600,000	50,000	100,000	1, 050, 000
「専門看護師[CNC]コース】)	口27年及	2年度以降	1	600,000	100,000	100,000	800, 000
看護学研究科	H27年度~	初年度	300,000	600,000	100,000	100,000	1, 100, 000
(高度実践看護師コース 【診療看護師コース】)	1121十尺	2年度以降	_	600,000	200,000	100,000	900, 000

◆ **学部** (単位:円)

								(井瓜・11)
学部名	年 度	納入金	入学金	授業料	教 育 充実費	実 験 実習費	施 設 維持費	計
医学部医学科	H18年度	初年度	1,000,000	2,000,000	5, 000, 000	1,000,000	1, 500, 000	10, 500, 000
	口10平度	2年度以降		2,000,000	1,000,000	1,000,000	1, 500, 000	5, 500, 000
	H19年度~	初年度	1, 500, 000	3,000,000	4,000,000	_	1,000,000	9, 500, 000
		2年度以降	_	3,000,000	1,500,000	_	1, 200, 000	5, 700, 000
看護学部看護学科	H19年度~	初年度	300,000	1,000,000	200,000	170, 000	_	1, 670, 000
	1113千段。	2年度以降		1,000,000	300,000	220, 000		1, 520, 000

# (13) 外部資金の受入状況

## ◆ 科学研究費助成事業

		James II	-	4.1.			<b>→</b> t	
	新規			継	続 注2)		計	
年度	rh == //- */-	採	択 <b>注2)</b>	◇小◇井 / 井 米ト	直接経費	◇ / ↓ ★ ★	直接経費	
1 ~	申請件数 (件)	件 数	直接経費 (間接経費)	継続件数 (件)	(間接経費) (円)	全件数 (件)	(間接経費) (円)	
	注1)	(件)	(円)		(口)		(口)	
H23年度	105	27	49, 900, 000	37	41, 300, 000	64	91, 200, 000	
1125千皮	103	21	(14, 970, 000)	31	(12, 300, 000)	01	(27, 270, 000)	
H24年度	120	20	39, 200, 000	47	58, 500, 000	67	97, 700, 000	
1124千/支	120	120	20	(11, 760, 000)	71	(17, 550, 000)	01	(29, 310, 000)
H25年度	109	23	47, 900, 000	48	53, 750, 000	71	101, 650, 000	
1125千茂	109	23	(14, 370, 000)	48	(15, 810, 000)	11	(30, 180, 000)	
H26年度	123	22	40, 300, 000	62	62, 700, 000	84	103, 000, 000	
1120十月	123	22	(12,090,000)	02	(18, 360, 000)	04	(30, 450, 000)	
H27年度	128	35	64, 400, 000	54	58, 900, 000	89	123, 300, 000	
1141 中及	120	35	<sup>5</sup> (19, 320, 000)	54	(17, 670, 000)	09	(36, 990, 000)	

注1): 各年度11月時点での申請件数

注2):採択欄及び継続欄の件数及び交付額は、交付申請額(転入、転出又は追加採択を含む)。

# (14) 財産目録

# ◆ 財産目録(平成28年3月31日現在)

I	資産総額	72, 167, 022, 438円
	内 1 基本財産	50, 052, 339, 141円
	2 運用財産	22, 114, 683, 297円
П	負債総額	38, 892, 107, 163円
Ш	[ 正味財産	33, 274, 915, 275円

## [1] 資産

1	基本財産	50, 052, 339, 141円	(単位 m²)	(単位 円)
(1)	土地		243, 674. 41	8, 202, 690, 810
	校舎敷地		29, 126. 00	287, 666, 918
	病院敷地		59, 312. 00	671, 206, 147
	メディカルクリニック敷地		1, 284. 81	430, 213, 005
	特高変電所敷地		1, 890. 00	20, 825, 453
	課外活動施設敷地		1, 112. 00	12, 252, 859
	雁又グラウンド		11, 169. 00	575, 436, 014
	駐車場		59, 087. 59	3, 063, 015, 487
	メディカルクリニック駐車場		147. 56	89, 248, 619
	寅山グラウンド		56, 010. 00	2, 027, 810, 709
	保育所敷地		1, 581. 00	80, 013, 000
	車庫棟敷地		2, 247. 00	36, 920, 467
	その他		20, 707. 45	908, 082, 132
(2)	建物		198, 905. 01	32, 679, 216, 629
	1号館(大学本館)		18, 031. 25	3, 110, 763, 103
	2号館(研究棟)		16, 924. 83	1, 192, 394, 586
	3号館(基礎科学棟)		3, 176. 60	136, 336, 743
	4号館(看護学部棟)		3, 767. 03	384, 306, 429
	7号館(医心館)		3, 247. 77	563, 556, 924
	車庫棟		533. 26	67, 317, 925
	5号館(総合実験研究棟)		4, 092. 06	385, 388, 568
	5号館(動物実験センター)		898. 27	45, 341, 953
	6 号館(体育館・運動療育センター)		7, 076. 11	439, 133, 616
	中央棟		86, 341. 17	21, 499, 143, 838
	C棟		16, 781. 07	1, 846, 890, 031
	D棟		11, 326. 03	991, 599, 030
	立体駐車場		22, 407. 36	1, 564, 311, 524
	メディカルクリニック		2, 714. 63	234, 867, 726
	クラブハウス		1, 152. 74	42, 500, 979
	新ガスガバナー室		52. 64	40, 827, 573
	守衛所(大学本館前)		6.6	-
	寅山グラウンド		133. 04	12, 502, 093
	保育所		242. 55	122, 033, 988

(単位 円)

			(単位 円 <u>)</u>
(3)	構築物		
	新病院等建設工事仮設道路築造 他	443件	1, 027, 628, 167
(4)	図書		918, 543, 958
	一般教育及び専門図書	69, 431冊	506, 198, 005
	学術雑誌製本図書	21, 986冊	373, 960, 328
	視聴覚図書	1,737点	38, 385, 625
(5)	教育研究用機器備品		
	高精度放射線治療システム 他	13,808点	6, 323, 320, 428
(6)	管理用機器備品	574点	192, 171, 499
	絵画・陶器・像 他	60点	98, 776, 170
	机・事務機器 他	514点	93, 395, 329
(7)	車 両	12台	7, 278, 875
(8)	建設仮勘定		187, 746, 114
(9)	ソフトウェア		493, 742, 661
(10)	借地権		20, 000, 000

2	運用財産	22, 114, 683, 297円	(単位 円)
(1)	預金・現金		3, 888, 959, 235
	ア預金		3, 872, 112, 273
	普通預金		3, 818, 325, 769
	振替口座		8, 786, 504
	定期預金		45, 000, 000
	イ 現 金		16, 846, 962
(2)	積立金		10, 708, 000, 000
	学校債償還引当	特定資産	1, 853, 000, 000
	借入金返済引当	特定資産	6, 600, 000, 000
	医療機器等整備	調整資金引当特定資産	1, 850, 000, 000
	教育研究奨励引	当特定資産	300, 000, 000
	国際交流推進引	当特定資産	60, 000, 000
	教育研究活性化	引当特定資産	45, 000, 000
(3)	有価証券		
	株券 他		11, 400, 000
(4)	不動産		
	ア土地	24, 539. 42 m <sup>2</sup>	180, 021, 698
	イ 建物	$0.00\mathrm{m}^2$	1, 258, 553
(5)	電話加入権	135本	5, 103, 000
(6)	施設利用権	6本	203, 783, 572
(7)	保証金		255, 500
(8)	預託金		150, 720
(9)	長期貸付金		212, 100, 000
(10)	貯蔵品		211, 464, 483
(11)	未収入金		6, 439, 468, 967
(12)	前払金		146, 535, 259
(13)	立替金		3, 582, 310
(14)	短期貸付金		102, 600, 000

[2] 負 債

38, 892, 107, 163円

(単位 円)

			(十1元 11)
(1)	固定	至負債	28, 885, 883, 551
	イ	長期借入金	19, 066, 239, 000
	口	学校債	1, 600, 000, 000
	ハ	退職給与引当金	6, 303, 223, 236
	=	長期前受金	0
	ホ	長期未払金	1, 916, 421, 315
(2)	流重	カ負債	10, 006, 223, 612
	イ	短期借入金	5, 031, 846, 000
	口	前受金	1, 123, 355, 764
	ハ	未払金	3, 293, 158, 538
	=	1年以内償還予定学校債	253, 000, 000
	ホ	預り金	304, 863, 310

## [3] 借用財産

## (15) 監査報告書

## 監査報告書

平成28年5月23日

学校法人 愛知医科大学 理事会 御中 評議員会 御中

監事 岡 田 忠 即

監事 林 清博 印

私たちは、私立学校法第37条第3項に基づく監査報告を行なうため、学校法人愛知医科大学の平成27年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会、評議員会及び常任理事会に出席するほか、私たちが必要と認めた 監査手続きを実施した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重 大な事実のないことを認める。

以 上

# 5 当面の課題

#### 5 当面の課題

本学が永続的に発展・成長し続けるためには、まさに「財の独立なくして学の独立なし」であることから、安定した財政基盤の構築を図っていくことが必要であり、事業財源の確保が最重要課題であることは言うまでもありません。そのためには、事業収入の四分の三強を占める病院収入の増収が必須であり、新病院の機能を最大限に発揮して、効率的で高収益体質の構造となるよう改革を進めていかねばなりません。

大学ガバナンス改革に関する学校教育法の改正を踏まえ、従来の評議会組織を見直し、学長と副学長を中心とする新たな審議組織「大学運営審議会」を設置するとともに、教育・研究・診療に係る重要事項及び将来構想等に係る審議を円滑に進めていくことが求められています。

また、地域貢献並びに広報活動として、本学を拠点とするバス路線のハブ化実現に向けた具体的な運用 方法等について関係機関との調整等を図るとともに、広報誌・ホームページを始めとする広報媒体を見直 し、情報発信の活性化を図っていく必要があります。

研究面では、研究を活性化し、より多くの研究成果を生み出していく力の創出と、その力を十分に発揮できる新たな研究支援体制を整備し、本学内外の研究活動の連携を推進するとともに、研究活動の開始から研究開発への昇華及び成果の社会還元までの支援体制を強化する体制の構築を目指す必要があります。

#### <医学部>

大学人は、教育・研究・診療を一体のものとして日々精進する必要があり、この具体化として医学部では当面、次の事項を課題として認識し重点的に取り組んでいきます。

## 1 優秀な学生獲得に向けた方策の展開

18歳人口の減少に対応する優秀な学生の獲得に向けた入試制度改革や学生募集の見直しの方策を具体化していくことが重要であり、また、2020年に予定されている大学入学試験制度改革に沿った本学の入試方法の改革の検討も行わなければなりません。

#### 2 国際認証受審の準備

平成30年度の国際認証受審をめざした本格的な準備作業を教員と連携しながら実施し、平成28年度カリキュラムの検証を行うとともに平成29年度に向け、更なる充実したカリキュラム改訂を実施していく必要があります。

## 3 国家試験合格率の向上の対策

国家試験合格率向上に向けた対策を継続して強化する必要があります。成績不振者に対しては、早期の学習指導や学力強化合宿の実施や保護者に対する指導も実施する必要があります。

#### 4 研究施設設備の整備更新

フロンティアに立った研究に取り組んでいけるよう研究設備・施設の計画的な整備更新について組織 立って検討し、実施に移していく必要があります。

## <看護学部>

県内及び隣県の看護系大学の増加に伴い、大学間の受験生の確保競争が激化しています。受験生の卒業後の職業人としての将来像が一般の学部よりも明確となっている看護学部にとっては、教育内容の評価、取り分け国家試験合格率が大学の評価と直結する傾向にあり、もって質の良い教育内容を裏付ける指針ともなります。大学を永続的に発展させていくためには、質の良い学生の確保が必要であり、そのためには毎年一定数以上の受験生の確保が必要となります。また、併せて教員の確保も同様に競争となることから、働きやすく魅力ある大学としての環境整備が求められます。

## 1 新カリキュラム導入準備

看護学教育においては、現行カリキュラムで明らかになった課題を解決し、社会のニーズに応え得る 看護実践能力を身につけた看護職の養成を目指すため、平成29年度から新カリキュラムの導入を検討し ています。また、大学院看護学研究科の高度実践看護師(診療看護師)コースは、平成27年10月に厚生労働省から、特定行為に係る看護師の研修制度に係る特定行為研修機関の指定を受けたことにより、看護師本来の職能を基盤として、医師との連携・協力による、より質の高い医療に係る専門技能が発揮できる特定行為を含めた看護サービスが提供できる人材の養成に向けて、更なる教育の充実を図っていきます。

#### 2 認定看護師教育課程

看護実践研究センターに設置している認定看護師教育課程(感染看護分野及び救急看護分野)では、 平成26年度から実施した開講期間の延長(1カ月延長して7か月)を生かした教育方法・教育内容による、より充実した教育を実施していきます。また、近年の定員割れを解消するために、学生募集に係る 広報活動の充実、及び二次募集の実施により学生確保を図っていきます。

#### <病院>

我が国は、2025年に国民の4人に1人が75歳以上の高齢者となる超高齢社会を迎えることから、医療・介護ニーズの急増への対応施策として「病床機能報告制度」とその情報を基にした「地域医療構想の策定」が行われ、地域包括ケアシステム、医療費抑制施策など病院経営にとって全く予断を許さない状況が待ち受けています。

新病院においては、診療方針として「大学病院としての高度な医療の提供」及び「救急医療体制の充実」を掲げています。その実現を図るため、DPC分析に基づいたより効率的な病院経営を推進し、ICU系病床の優先的稼働及び難易度の高い手術による複雑性指数のアップも含めた「診療単価の向上」に取り組み、新病院における医療機能(集中治療室・手術室の機能)及び最先端の検査設備(PET-CT, 3.0 テスラMRI, 2 管球CT等)を最大限に活用し、手術(特に難易度の高い)及び放射線検査等の件数の拡大を図る必要があります。

平成28年4月の診療報酬改定では、医療費抑制政策として、地域包括ケア推進、7対1病床のさらなる適正化、診療報酬本体の引上げ、薬価・材料の引き下げが行われ、特に7対1病床については、重症度、医療・看護必要度の大幅見直しが行われたことから、高度急性期病院として機敏に対応することが必要です。平成28年度の新たなアクションプランとして、①質の高いがん医療の充実、②地域医療連携の強化、③救急患者受け入れ体制の強化、④手術室・GICU運用の強化を掲げ、それぞれにプロジェクトチームを設置して着実に実行していくこととしています。

また、高度急性期病院として、診療密度が特に高い医療を提供する機能を維持していくためには、高度 急性期医療の後の患者の紹介及び回復期患者等の対応など地域病院との連携がより重要となってきていま す。これからはいわゆる関連病院として連携を促進することが必須であり、そのためには医師の派遣機能 を充実させる必要があります。これにより転院、紹介及び逆紹介と患者にとってのメリット、また、医師 にとっても回復期の経験を積めるメリット、さらには、実習病院として最適である等教育機関としてのメ リットが期待できます。先ずは、本学医師のネーベン数の多い病院について、病床数、病床機能、紹介患 者数及び開設エリア等を分析し、関連病院の整備を検討するとともに、ネーベンに関する運用等を検討し、 ネーベン数の適正化を図っていくこととしています。

また,「大学病院としての高度医療の提供」,「救急医療体制の充実」など新病院が有する本来機能を 発揮させるために必要な付加的業務に対するインセティブの導入について検討していく必要があり,病院 長を中心とした対策チームを編成しました。ここでは,既に支給されている各種手当の見直し,改廃についても併せて検討を行います。

平成27年10月施行の医療法の改正により医療事故調査制度が施行され、病院管理者が予期しない死亡事故については、医療事故調査・支援センターに報告するとともに、第三者を含めた医療事故調査委員会を

立ち上げて事故原因を調査し、再発防止策を検討し、報告することが求められています。更に、平成28年 6 月施行の医療法施行規則の改正により、特定機能病院は、医療安全管理責任者の配置、医療安全管理部 門の専任医師、薬剤師、看護師の配置等の体制強化、高難度医療技術の実施や未承認新規医薬品の使用に 当たっての安全管理体制の確保、監査委員会の設置、大学病院のガバナンス確保として病院長が責任を持って経営を行うための権限の更なる強化とそれに合わせた組織の見直しなどが求められており、これらの 医療安全対策に的確に対応していく必要があります。

#### <その他>

- 1 キャンパス再整備計画は順調に推移し、旧AB病棟等の解体工事も平成28年5月末をもって完了します。 今後は引き続き、跡地利用計画を始め、周辺の整備事業を進めます。
  - 大学南側用地の駐車場整備事業(用地取得事業完了分)
  - ・ キャンパス内の公共用地の整理(立石池周辺道路拡幅、河川敷地、用悪水路等)
- 2 近い将来発生すると考えられる災害(南海トラフ地震等)対策の充実を図ります。
  - ・ 夜間想定訓練等、より現実的な訓練の実施
  - ・ 安否確認システムの登録率の向上
- 3 その他懸案事項の整理を進めます。
  - 平成28年3月にサービスを開始したレンタルパジャマ事業の利用状況調査・改善
- 4 補助金増額のための教育研究基盤整備
  - ・ 文部科学省直接補助研究プロジェクト等新規項目の申請
  - 私立大学等経常費補助金一般補助增額策
  - 私立大学等経常費補助金特別補助申請の推進
  - 私立大学等経常費補助金改革総合支援事業選定に向けた諸施策
  - 補助金情報収集策の検討
- 5 持続可能な募金業務の推進
  - ・ 新病院を中心としたキャンパス整備募金業務の継続

私立医科大学のすべての基本は、まずは経営の安定であることはいうまでもありません。平成18年からキャンパス再整備にとりかかり、一昨年の平成26年5月に本丸である新病院が無事完成し、この新病院が新病院基本構想に掲げた目標値をクリアしてくるようになりました。教育、研究施設の整備と相まって、今後50年以上の愛知医科大学のスタート台が整ったといえます。愛知医科大学が立地する長久手市は、日本の790市の都市の中で一番住みやすい快適な街であるといわれています。さらに、最も市民の平均年齢が若く、出生率も上位という特異な街との評価で、日本の将来の一つのモデルとなりうるとされています。愛知医科大学も最先端医療を提供して、日本でも屈指の医科大学となるよう、職員一同全身全霊を尽くして行くことが求められています。

【発行年月日】 平成28年5月31日

【発 行】 学校法人愛知医科大学

【発行人】 理事長 三宅養三

【編集責任者】 法人本部長 島田 孝一

【企画・編集】 財務・管理室